

## NEC Express5800シリーズ Express5800/B140a-T

# 4

## 運用・保守編

装置の運用および保守について説明します。

### 「日常の保守」(258ページ)

日常使う上で確認しなければならない点やファイルの管理、クリーニングの方法について説明します。

### 「システム診断」(262ページ)

診断ユーティリティの使い方について説明します。

### 「障害時の対処」(265ページ)

故障かな？と思ったときに参照してください。トラブルの原因の確認方法やその対処方法について説明しています。

### 「保守ツール」(336ページ)

保守ユーティリティの使い方について説明します。

### 「システムマネジメント」(341ページ)

CPUブレードに搭載されたシステム管理機能の設定について説明します。

### 「移動と保管」(342ページ)

CPUブレードを移動・保管する際の手順や注意事項について説明します。

### 「ユーザーサポート」(344ページ)

本製品に関するさまざまなサービスについて説明します。サービスは弊社、および弊社が認定した保守サービス会社から提供されるものです。ぜひご利用ください。

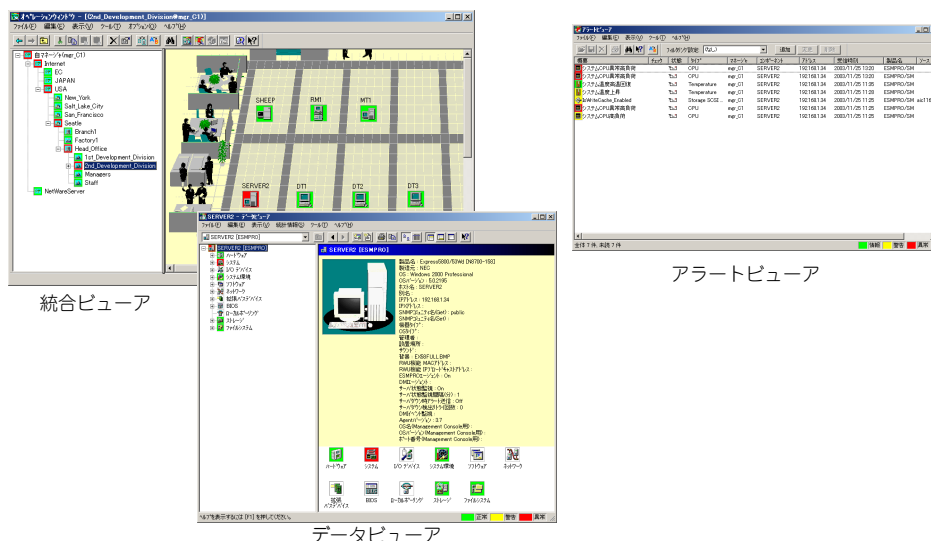
# 日常の保守

ブレードサーバを常にベストな状態でお使いになるために、ここで説明する確認や保守を定期的に行ってください。万一、異常が見られた場合は、無理な操作をせずに保守サービス会社に保守を依頼してください。

## アラートの確認

システムの運用中は、ESMPROで障害状況を監視してください。  
管理PC上のESMPRO/ServerManagerにアラートが通報されていないか、常に注意するよう心がけてください。ESMPRO/ServerManagerの「統合ビューア」、「データビューア」、「アラートビューア」でアラートが通報されていないかチェックしてください。

### ESMPROでチェックする画面



## ステータスランプの確認

ブレードサーバの電源をONにした後、およびシャットダウンをしてブレードサーバの電源をOFFにする前に、CPUブレード前面にあるランプの表示を確認してください。ランプの機能と表示の内容については「ハードウェア編」の「各部の名称と機能」をご覧ください。万一、CPUブレードや各デバイスの異常を示す表示が確認された場合は、保守サービス会社に連絡して保守を依頼してください。

## バックアップ







定期的にブレードサーバのハードディスクドライブ内の大切なデータをバックアップすることをお勧めします。ブレードサーバに最適なバックアップ用ストレージデバイスやバックアップツールについてはお買い求めの販売店にお問い合わせください。

ハードウェアの構成を変更したり、BIOSの設定を変更したりした後は、オフライン保守ユーティリティの「システム情報の管理」機能を使ってシステム情報のバックアップをとってください（60ページを参照）。

ディスクアレイを構築しているシステムでは、ディスクアレイのコンフィグレーション情報のバックアップをとっておいてください。また、ハードディスクドライブの故障によるリビルドを行った後もコンフィグレーション情報のバックアップをとっておくことをお勧めします。コンフィグレーション情報のバックアップについては、オプションのディスクアレイコントローラに添付の説明書を参照してバックアップをとってください。

## クリーニング

装置を良い状態に保つために定期的にクリーニングしてください。

 <b>警告</b>	
    	<p>装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分で分解・修理・改造はしない</li> <li>● プラグを差し込んだまま取り扱わない</li> </ul>

### 本体のクリーニング

ブレード収納ユニットの外観の汚れは、柔らかい乾いた布で汚れを拭き取ってください。汚れが落ちにくいときは、次のような方法できれいになります。



- シンナー、ベンジンなどの揮発性の溶剤は使わないでください。材質のいたみや変色の原因になります。
- コンセント、ケーブル、ブレード収納ユニットに搭載しているデバイス、ブレード収納ユニット内部は絶対に水などでぬらさないでください。

1. ブレード収納ユニットの電源がOFF（POWERランプ消灯）になっていることを確認する。
2. ブレード収納ユニットの電源コードをコンセントから抜く。

3. 電源コードの電源プラグ部分についているほこりを乾いた布でふき取る。
4. 中性洗剤をぬるま湯または水で薄めて柔らかい布を浸し、よく絞る。
5. ブレード収納ユニットの汚れた部分を手順4の布で少し強めにこすって汚れを取る。
6. 真水でぬらしてよく絞った布でもう一度ふく。
7. 乾いた布でふく。
8. 乾いた布で装置背面にあるファンの排気口に付着しているほこりをふき取る。

## キーボード/マウスのクリーニング

キーボードは本体および周辺機器を含むシステム全体の電源がOFF（POWERランプ消灯）になっていることを確認した後、キーボードの表面を乾いた布で拭いてください。  
マウスが正常に機能するためには、内部のマウスボールがスムーズに回転できる状態でなければなりません。マウスボールの汚れを防ぐためにほこりの少ない場所で使用して、定期的に次の手順でクリーニングしてください。

1. 本体の電源がOFF（POWERランプ消灯）になっていることを確認する。

2. マウスを裏返してマウスボールカバーを反時計回りに回して中からマウスボールを取り出す。

3. マウスボールを乾いた柔らかい布などでふいて、汚れを取り除く。

汚れがひどいときはぬるま湯、または水で薄めた中性洗剤を少量含ませてふいてください。

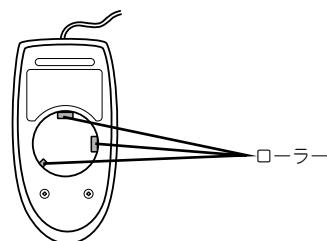
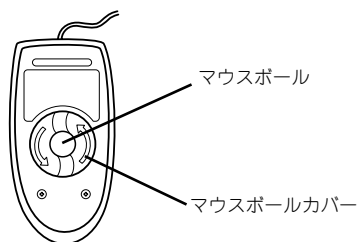
4. マウス内部にある3つの小さなローラを綿棒などでふく。

汚れがひどいときはアルコールなどを少量含ませてふいてください。

5. マウスボールをマウスの中に戻す。

手順3、4でマウスボールやローラをぬらした場合は、十分に乾燥させてからボールを入れてください。

6. マウスボールカバーを元に戻して、時計回りに回してロックする。



## CD-ROM/DVD-ROMのクリーニング

CD-ROM/DVD-ROMにほこりがついていたり、トレイにほこりがたまっていたりするとデータを正しく読み取れません。次の手順に従って定期的にトレイ、CD-ROM/DVD-ROMのクリーニングを行います。

1. 本体の電源がON（POWERランプ点灯）になっていることを確認する。
2. 光ディスクドライブ前面のトレイジェクトボタンを押す。  
トレイが光ディスクドライブから出てきます。
3. CD-ROM/DVD-ROMを軽く持ちながらトレイから取り出す。



CD-ROM/DVD-ROMの信号面に手が触れないよう注意してください。

4. トレー上のほこりを乾いた柔らかい布でふき取る。

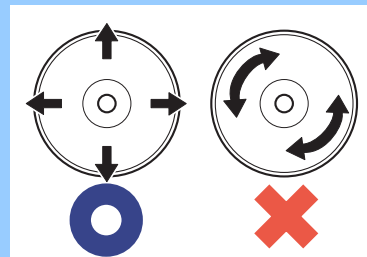


光ディスクドライブのレンズをクリーニングしないでください。レンズが傷ついて誤動作の原因となります。

5. トレーを軽く押してトレイを光ディスクドライブに戻す。
6. CD-ROM/DVD-ROMの信号面を乾いた柔らかい布でふく。



CD-ROM/DVD-ROMは、中心から外側に向けてふいてください。クリーナをお使いになるときは、CD-ROM/DVD-ROM専用のクリーナであることを確かめください。レコード用のスプレー、クリーナ、ペンジン、シンナーを使用すると、ディスクの内容が読めなくなったり、装置にそのディスクをセットした結果、故障したりするおそれがあります。



# システム診断

システム診断はCPUブレードに対して各種テストを行います。  
「EXPRESSBUILDER」の「Tool menu」から「Test and diagnostics」を選択して診断してください。

## システム診断の内容

システム診断には、次の項目があります。

- CPUブレードに取り付けられているメモリのチェック
- CPUキャッシュメモリのチェック
- システムとして使用されているハードディスクドライブのチェック



システム診断を行う時は、必ず診断対象となるCPUブレードをネットワークから切り離してください。接続したままシステム診断を行うと、ネットワークに影響をおよぼすおそれがあります。



ハードディスクドライブのチェックでは、ディスクへの書き込みは行いません。

## システム診断の起動と終了

システム診断には、ブレード収納ユニットのコンソール（USB接続キーボード）を使用する方法と、シリアルポート経由で接続されている管理PCのコンソールを使用する方法（コンソールレス）があります。

それぞれの起動方法は次のとおりです。



「保守ツール」では、コンソールレスでの通信方法にLANとCOMポートの2つの方法を記載していますが、コンソールレスでのシステム診断ではCOMポートのみを使用することができます。

1. シャットダウン処理を行った後、CPUブレードの電源をOFFにする。
2. ブレード収納ユニットに接続しているLANケーブルをすべて取り外す。また、ブレード収納ユニットにスイッチモジュールを接続している場合はスイッチモジュールに接続しているLANケーブルもすべて取り外す。
3. CPUブレードの電源をONにする。
4. 「EXPRESSBUILDER」DVDを使ってシステムを起動する。

5. ブレード収納ユニットのコンソールを使用して起動する場合は「Tool menu (Normal mode)」を、コンソールレスで起動する場合は「Tool menu (Redirection mode)」を選択する。

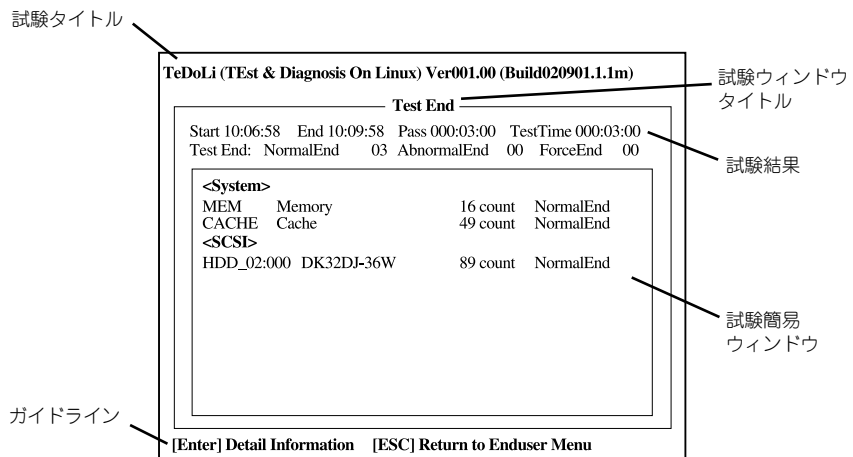


システムによっては、Language selectionメニューが表示される場合があります。Language selectionメニューが表示された場合は「Japanese」を選択します。

6. TOOL MENUの「Test and diagnostics」を選択する。

Test and diagnosticsの「End-User Mode」を選択してシステム診断を開始します。約3分で診断は終了します。

診断を終了するとディスプレイ装置の画面が次のような表示に変わります。



#### 試験タイトル

診断ツールの名称およびバージョン情報を表示します。

#### 試験ウィンドウタイトル

診断状態を表示します。試験終了時にはTest Endと表示します。

#### 試験結果

診断開始・終了・経過時間および終了時の状態を表示します。

#### ガイドライン

ウィンドウを操作するキーの説明を表示します。

#### 試験簡易ウィンドウ

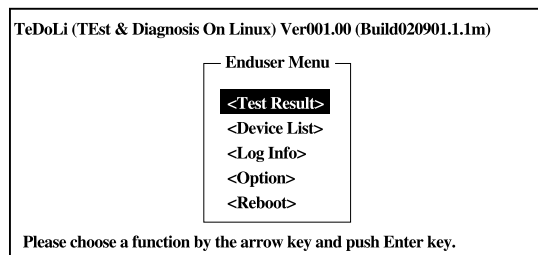
診断を実行した各試験の結果を表示します。カーソル行で<Enter>キーを押すと試験の詳細を表示します。

システム診断でエラーを検出した場合は試験簡易ウィンドウの該当する試験結果が赤く反転表示し、右側の結果に「Abnormal End」を表示します。

エラーを検出した試験にカーソルを移動し<Enter>キーを押し、試験詳細表示に出力されたエラーメッセージを記録してお買い求めの販売店、または保守サービス会社に連絡してください。

7. 画面最下段の「ガイドライン」に従い<Esc>キーを押す。

以下のエンドユーザーメニューを表示します。



#### <Test Result>

前述の診断終了時の画面を表示します。

#### <Device List>

接続されているデバイス一覧情報を表示します。

#### <Log Info>

試験ログを表示します。試験ログをフロッピーディスクへ保存することができます。フロッピーディスクへ記録する場合は、フォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、<Save(F)>を選択してください。

#### <Option>

オプション機能が利用できます。

#### <Reboot>

システムを再起動します。

8. 上記エンドユーザーメニューで<Reboot>を選択する。

再起動し、システムがEXPRESSBUILDERから起動します。

9. EXPRESSBUILDERを終了し、光ディスクドライブからDVDを取り出す。

10. CPUブレードの電源をOFFにする。

11. 手順2で取り外したLANケーブルを接続し直す。

以上でシステム診断は終了です。



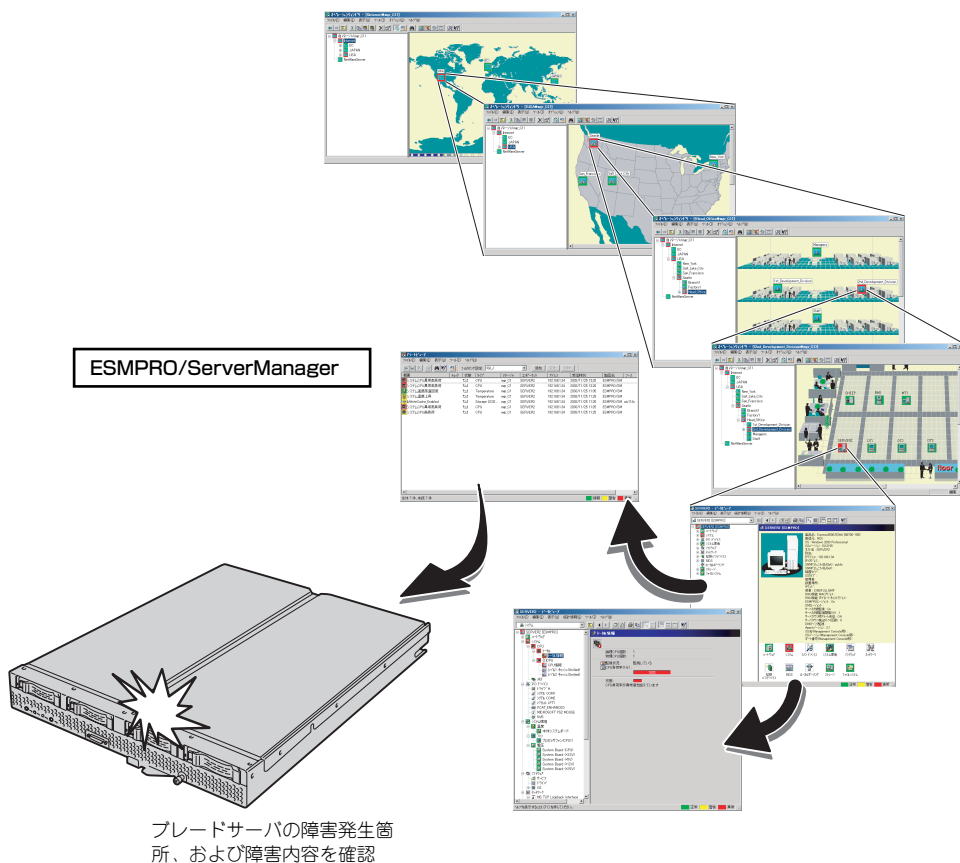
# 障害時の対処

「故障かな？」と思ったときは、ここで説明する内容について確認してください。該当することがある場合は、説明に従って正しく対処してください。

## 障害箇所の切り分け

万一、障害が発生した場合は、ESMPRO/ServerManagerを使って障害の発生箇所を確認し、障害がハードウェアによるものかソフトウェアによるものかを判断します。障害発生箇所や内容の確認ができたなら、故障した部品の交換やシステム復旧などの処置を行います。

障害がハードウェア要因によるものかソフトウェア要因によるものかを判断するには、ESMPRO/ServerManagerが便利です。



# エラーメッセージ

ブレードサーバになんらかの異常が起きるとさまざまな形でエラーを通知します。ここでは、エラーメッセージの種類について説明します。

## POST中のエラーメッセージ

CPUブレードの電源をONにすると自動的に実行される自己診断機能「POST」中に何らかの異常を検出すると、ディスプレイ装置の画面にエラーメッセージを表示します。

次にエラーメッセージの一覧と原因、その対処方法を示します。



- 保守サービス会社に連絡するときはディスプレイの表示やビープ音のパターンをメモしておいてください。アラーム表示は保守を行うときに有用な情報となります。
- 保守を行うときにIPMI情報も有用な情報となります。IPMI情報の採取方法は、334ページを参照してください。



- POSTのエラーメッセージ一覧はCPUブレードのみのものです。
- POSTのエラーメッセージには、POSTエラーコードも含まれている場合があります。例えば、「0B60: DIMM group #1 has been disabled」が表示された場合、0B60がPOSTエラーコードを示します。

ディスプレイ上のエラー メッセージ	意 味	対処方法
0200    Failure Fixed Disk	ハードディスクエラーが発生した。	保守サービス会社に連絡してください。
0230    System RAM Failed	基本システムメモリ領域にてエラーを検出した。	1. 以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの再立ち上げ（リセット）を実施してください。 *OS からの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESET スイッチ *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager からの制御
0231    Shadow Ram Failed	システムメモリ内のシャドウ領域にてエラーを検出した。	2. 以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON してください。 *OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON
0232    Extend RAM Failed	拡張システムメモリ領域にてエラーを検出した。	*POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager からの制御 3. DIMM の取り付け状態を確認してください。 4. DIMM を交換してください。 6. CPU ブレードを交換してください。 7. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

ディスプレイ上のエラー メッセージ	意 味	対処方法
0250 System battery is dead - Replace and run SETUP	CPUユニット上のリチウムバッ テリにてエラーを検出した。	<ol style="list-style-type: none"> <li>以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON してください。 *OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON *POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager からの制御</li> <li>OS からの制御、あるいは POWER スイッチを押すことにより、CPU ブレードの電源を OFF し、CPU ブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWER スイッチを押し、電源を ON してください。</li> <li>CPU ユニット上のリチウムバッテリーの取り付け状態を確認してください。</li> <li>CPU ユニット上のリチウムバッテリーを交換してください。</li> <li>CPU ブレードを交換してください。</li> <li>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</li> </ol> <p>備考：CPU ブレードの再立ち上げ後、BIOS セットアップを起動し、日付・時刻やその他の設定項目を設定し直してください。</p>
0251 System CMOS checksum bad - Default con- figuration used	CPU ユニット上の CMOS チェックサムエラーを検出した。	<p>BIOS SETUP の設定がデフォルト値に設定されました。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>BIOS セットアップを起動し、設定項目を設定し直してください。</li> <li>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</li> </ol>
0252 Password checksum bad - Passwords cleared	パスワードのチェックサムエ ラーを検出した。	<p>パスワードがクリアされました。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>BIOS セットアップを起動し、設定項目を設定し直してください。</li> <li>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</li> </ol>
0260 System timer error	システムタイマーエラーを検出 した。	<ol style="list-style-type: none"> <li>以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON してください。 *OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON *POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager からの制御</li> <li>CPU ブレードを交換してください。</li> <li>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</li> </ol>
0270 Real timer error	リアルタイムエラーを検出した。	
0271 Check date and time setting	リアルタイムクロックの時刻設 定に誤りを検出した。	<ol style="list-style-type: none"> <li>BIOS セットアップを起動し、日付・時刻を設定し直してください。</li> <li>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</li> </ol>
0615 Com B configuration changed	シリアルポート B の設定が変更 された。	<ol style="list-style-type: none"> <li>BIOS セットアップを起動し、設定し直してください。</li> </ol>
0616 Com B config.error - device disabled	シリアルポート B の設定にてエ ラーを検出した。	<ol style="list-style-type: none"> <li>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</li> </ol>
0B28 Unsupported Proces- sor detected on Pro- cessor 1	CPU#1 にサポートしていない CPU が搭載されていることを検 出した。	<ol style="list-style-type: none"> <li>以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ（リセット）を実施してください。 *OS からの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESET スイッチ *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager からの制御</li> </ol>
0B29 Unsupported Proces- sor detected on Pro- cessor 2	CPU#2 にサポートしていない CPU が搭載されていることを検 出した。	<ol style="list-style-type: none"> <li>増設、あるいは交換した CPU を交換してください。</li> </ol>
0B2A Unsupported Proces- sor detected on Pro- cessor 3	CPU#3 にサポートしていない CPU が搭載されていることを検 出した。	
0B2B Unsupported Proces- sor detected on Pro- cessor 4	CPU#4 にサポートしていない CPU が搭載されていることを検 出した。	<ol style="list-style-type: none"> <li>エラーが発生した CPU を交換してください。</li> <li>CPU ブレードを交換してください。</li> <li>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</li> </ol>

ディスプレイ上のエラー メッセージ	意 味	対処方法
0B50 Processor #1 with error taken off line	CPU#1 でエラーを検出し、 CPU#1 を縮退した。	1. BIOS セットアップを起動し、「Main」 - 「Processor Settings」 - 「Processor Retest」を Yes に変更し、「Exit」 - 「Exit Saving Changes」を実行してください。
0B51 Processor #2 with error taken off line	CPU#2 でエラーを検出し、 CPU#2 を縮退した。	2. エラーが発生した CPU を交換してください。 3. CPU ブレードを交換してください。 4. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社 に連絡してください。
0B52 Processor #3 with error taken offline	CPU#3 でエラーを検出し、 CPU#3 を縮退した。	備考：IPMI システムイベントログを参照する ことにより、詳細なエラー内容が判ります。 また、CPU 交換時の CPU ブレードの再立ち上 げ後、BIOS セットアップを起動し、「Main」 - 「Processor Settings」 - 「Processor Retest」 を Yes に変更し、「Exit」 - 「Exit Saving Changes」を実行してください。
0B53 Processor #4 with error taken offline	CPU#4 でエラーを検出し、 CPU#4 を縮退した。	
0B5F Forced to use Pro- cessor with error	搭載されたすべての CPU でエ ラーを検出したため、強制的に 起動した。	1. BIOS セットアップを起動し、「Main」 - 「Processor Settings」 - 「Processor Retest」を Yes に変更し、「Exit」 - 「Exit Saving Changes」を実行してください。 2. DIMM の取り付け状態を確認してください。 3. CPU ユニットと SAS ユニットの接続する信 号ケーブルの取り付け状態を確認してくださ い。 4. SAS ユニット上の DIMM の取り付け状態を 確認してください。 5. メザニンカードの取り付け状態を確認してく ださい。 6. CPU ブレードを交換してください。 7. メザニンカードを交換してください。 8. DIMM を交換してください。 9. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社 に連絡してください。  備考：IPMI システムイベントログを参照する ことにより、詳細なエラー内容が判ります。 また、交換時の CPU ブレードの再立ち上げ後、 BIOS セットアップを起動し、 「Main」 - 「Processor Settings」 - 「Processor Retest」を Yes に変更し、「Exit」 - 「Exit Saving Changes」を実行してください。
0B60 DIMM group #1 has been disabled	DIMM Group#1(DIMM#01/02) でエラーを検出し、DIMM Group#1 を縮退した。	1. BIOS セットアップを起動し、「Advanced」 - 「Memory Configuration」 - 「Memory Retest」を Yes に変更し、「Exit」 - 「Exit Saving Changes」を実行してください。
0B61 DIMM group #2 has been disabled	DIMM Group#2(DIMM#03/04) でエラーを検出し、DIMM Group#2 を縮退した。	2. エラーが発生した DIMM Group の取り付け 状態を確認してください。
0B62 DIMM group #3 has been disabled	DIMM Group#3(DIMM#05/06) でエラーを検出し、DIMM Group#3 を縮退した。	3. エラーが発生した DIMM Group を交換して ください。
0B63 DIMM group #4 has been disabled	DIMM Group#4(DIMM#07/08) でエラーを検出し、DIMM Group#4 を縮退した。	4. CPU ブレードを交換してください。 5. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社 に連絡してください。
0B64 DIMM group #5 has been disabled	DIMM Group#5(DIMM#09/10) でエラーを検出し、DIMM Group#5 を縮退した。	備考：IPMI システムイベントログを参照する ことにより、詳細なエラー内容が判ります。 また、交換時の CPU ブレードの再立ち上げ後、 「Advanced」 - 「Memory Configuration」 - 「Memory Retest」を Yes に変更し、「Exit」 - 「Exit Saving Changes」を実行してください。
0B65 DIMM group #6 has been disabled	DIMM Group#6(DIMM#11/12) でエラーを検出し、DIMM Group#6 を縮退した。	
0B66 DIMM group #7 has been disabled	DIMM Group#7(DIMM#13/14) でエラーを検出し、DIMM Group#7 を縮退した。	
0B67 DIMM group #8 has been disabled	DIMM Group#8(DIMM#15/16) でエラーを検出し、DIMM Group#8 を縮退した。	

ディスプレイ上のエラー メッセージ	意 味	対処方法
0B70 The error occurred during temperature sensor reading	温度センサの読み込み中にエラーを検出した。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ（リセット）を実施してください。            *OSからの制御            *「Ctrl + Alt + Del」キー入力            *RESET スイッチ            *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager からの制御</li> <li>2. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON してください。            *OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON            *POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON            *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager からの制御</li> <li>3. OSからの制御、あるいは POWER スイッチを押すことにより、CPU ブレードの電源を OFF し、CPUブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWER スイッチを押し、電源を ON してください。</li> <li>4. CPUブレードを交換してください。</li> <li>5. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</li> </ol>
0B71 System Temperature out of the range	温度異常を検出した。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ブレード収納ユニットのFANを確認してください。</li> <li>2. ブレード収納ユニットのユーザーズガイドを参照し、正しい数量・位置のFANが実装されているかを確認してください。</li> <li>3. FANとCPUブレードとの実装位置関係が正しいことを確認してください。</li> <li>4. CPUブレードのヒートシンクの取り付け状態を確認してください。</li> <li>5. 設置環境が動作保障温度を満たしていることを確認してください。</li> <li>6. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ（リセット）を実施してください。            *OSからの制御            *「Ctrl + Alt + Del」キー入力            *RESET スイッチ            *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager からの制御</li> <li>7. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON してください。            *OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON            *POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON            *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager からの制御</li> <li>8. OSからの制御、あるいは POWER スイッチを押すことにより、CPU ブレードの電源を OFF し、CPUブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWER スイッチを押し、電源を ON してください。</li> <li>9. CPUブレードを交換してください。</li> <li>10. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</li> </ol>

ディスプレイ上のエラー メッセージ	意 味	対処方法
0B74 The error occurred during voltage sensor reading	電圧センサの読み込み中にエラーを検出した。	<ol style="list-style-type: none"> <li>以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの再立ち上げ（リセット）を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*OS からの制御</li> <li>*「Ctrl + Alt + Del」キー入力</li> <li>*RESET スイッチ</li> <li>*EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager からの制御</li> </ul> </li> <li>以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON</li> <li>*POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON</li> <li>*EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager からの制御</li> </ul> </li> <li>OS からの制御、あるいは POWER スイッチを押すことにより、CPU ブレードの電源を OFF し、CPU ブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWER スイッチを押し、電源を ON してください。</li> <li>CPU ユニットと SAS ユニートを接続する信号ケーブルの取り付け状態を確認してください。</li> <li>CPU ブレードを交換してください。</li> <li>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</li> </ol>
0B75 System voltage out of the range	電圧異常を検出した。	<ol style="list-style-type: none"> <li>以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの再立ち上げ（リセット）を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*OS からの制御</li> <li>*「Ctrl + Alt + Del」キー入力</li> <li>*RESET スイッチ</li> <li>*EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager からの制御</li> </ul> </li> <li>以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON</li> <li>*POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON</li> <li>*EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager からの制御</li> </ul> </li> <li>OS からの制御、あるいは POWER スイッチを押すことにより、CPU ブレードの電源を OFF し、CPU ブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWER スイッチを押し、電源を ON してください。</li> <li>CPU ユニットと SAS ユニートを接続する信号ケーブルの取り付け状態を確認してください。</li> <li>CPU ブレードを交換してください。</li> <li>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</li> </ol>
0B80 BMC Memory Test Failed	BMC(EXPRESSSCOPE エンジン)の故障を検出した。	<ol style="list-style-type: none"> <li>OS からの制御、あるいは POWER スイッチを押すことにより、CPU ブレードの電源を OFF し、CPU ブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWER スイッチを押し、電源を ON してください。</li> <li>CPU ブレードを交換してください。</li> <li>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</li> </ol>
0B81 BMC Firmware Code Area CRC check failed		
0B82 BMC core hardware failure		

ディスプレイ上のエラー メッセージ	意 味	対処方法
0B83 BMC IBF or OBF check failed	BMC(EXPRESSSCOPE エンジン) アクセスエラーを検出した。	<ol style="list-style-type: none"> <li>以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。            *OS からの制御            *「Ctrl + Alt + Del」キー入力            *RESET スイッチ            *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager からの制御</li> <li>以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON してください。            *OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON            *POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON            *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager からの制御</li> <li>OS からの制御、あるいは POWER スイッチを押すことにより、CPU ブレードの電源を OFF し、CPU ブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWER スイッチを押し、電源を ON してください。</li> <li>CPU ブレードを交換してください。</li> <li>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</li> </ol>
0B8A BMC SEL area full	IPMI システムイベントログの書き込める容量がないことを検出した。	<ol style="list-style-type: none"> <li>BIOS セットアップを起動し、「Server」 - 「Event Log Configuration」 - 「Clear All Error Logs」を実行し、IPMI システムイベントログを消去してください。</li> <li>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</li> </ol> <p>備考：BIOS セットアップにて IPMI システムイベントログを消去する前に、オフライン保守ユーティリティを起動し、IPMI システムイベントログをバックアップすることもできます。</p>
0B8B BMC progress check timeout	BMC(EXPRESSSCOPE エンジン) の故障を検出した。	<ol style="list-style-type: none"> <li>以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。            *OS からの制御            *「Ctrl + Alt + Del」キー入力            *RESET スイッチ            *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager からの制御</li> </ol>
0B8C BMC command access failed	BMC(EXPRESSSCOPE エンジン) コマンドアクセスに失敗したことを検出した。	<ol style="list-style-type: none"> <li>以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON してください。            *OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON            *POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON            *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager からの制御</li> </ol>
0B8D Could not redirect the console - BMC Busy -	コンソールリダイレクトができないこと(BMC ビジー)を検出した。	<ol style="list-style-type: none"> <li>OS からの制御、あるいは POWER スイッチを押すことにより、CPU ブレードの電源を OFF し、CPU ブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWER スイッチを押し、電源を ON してください。</li> </ol>
0B8E Could not redirect the console - BMC Error -	コンソールリダイレクトができないこと(BMC エラー)を検出した。	<ol style="list-style-type: none"> <li>OS からの制御、あるいは POWER スイッチを押すことにより、CPU ブレードの電源を OFF し、CPU ブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWER スイッチを押し、電源を ON してください。</li> </ol>
0B8F Could not redirect the console - BMC Parameter Error -	コンソールリダイレクトができないこと(BMC パラメータエラー)を検出した。	<ol style="list-style-type: none"> <li>CPU ブレードを交換してください。</li> <li>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</li> </ol>

ディスプレイ上のエラー メッセージ	意 味	対処方法
0B90 BMC Platform Information Area corrupted	BMC(EXPRESSSCOPE エンジン)の故障を検出した。	1. 以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの再起上げ(リセット)を実施してください。 *OS からの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESET スイッチ *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager からの制御 2. 以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON してください。 *OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON *POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager からの制御 3. OS からの制御、あるいは POWER スイッチを押すことにより、CPU ブレードの電源を OFF し、CPU ブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWER スイッチを押し、電源を ON してください。 4. CPU ブレードを交換してください。 5. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
0B91 BMC update firmware corrupted		
0B92 Internal Use Area of BMC FRU corrupted		
0B93 BMC SDR Repository empty		
0B94 IPMB signal lines do not respond	CPU ユニット内部、あるいは外部の SMBus にてエラーを検出した。	1. 以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの再起上げ(リセット)を実施してください。 *OS からの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESET スイッチ *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager からの制御 2. 以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON してください。 *OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON *POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager からの制御 3. OS からの制御、あるいは POWER スイッチを押すことにより、CPU ブレードの電源を OFF し、CPU ブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWER スイッチを押し、電源を ON してください。 4. CPU ブレードを交換してください。 5. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。



ディスプレイ上のエラーメッセージ	意 味	対処方法
0B95 BMC FRU device failure	BMC(EXPRESSSCOPE エンジン)の故障を検出した。	<ol style="list-style-type: none"> <li>以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。            *OSからの制御            *「Ctrl + Alt + Del」キー入力            *RESET スイッチ            *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager からの制御</li> <li>以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON してください。            *OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON            *POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON            *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager からの制御</li> <li>OSからの制御、あるいは POWER スイッチを押すことにより、CPU ブレードの電源を OFF し、CPUブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWER スイッチを押し、電源を ON してください。</li> <li>CPUブレードを交換してください。</li> <li>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</li> </ol>
0B96 BMC SDR Repository failure		
0B97 BMC SEL device failure		
0B98 BMC RAM test error		
0B99 BMC Fatal hardware error		
0BB0 SMBIOS - SROM data read error	CPUブレード内部の SROM(FRU) データ読み込み中にエラーを検出した。	<ol style="list-style-type: none"> <li>以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。            *OSからの制御            *「Ctrl + Alt + Del」キー入力            *RESET スイッチ            *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager からの制御</li> <li>以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON してください。            *OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON            *POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON            *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager からの制御</li> <li>OSからの制御、あるいは POWER スイッチを押すことにより、CPU ブレードの電源を OFF し、CPUブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWER スイッチを押し、電源を ON してください。</li> <li>CPUブレードを交換してください。</li> <li>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</li> </ol>
0BB1 SMBIOS - SROM data checksum bad	CPUブレード内部の SROM(FRU) データチェックサムエラーを検出した。	
0BC0 POST detected start-up failure of 1st Processor	CPU#1 の起動時エラーを検出した。	<ol style="list-style-type: none"> <li>BIOSセットアップを起動し、「Main」 - 「Processor Settings」 - 「Processor Retest」を Yes に変更し、「Exit」 - 「Exit Saving Changes」を実行してください。</li> <li>エラーが発生した CPU を交換してください。</li> <li>CPUブレードを交換してください。</li> <li>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</li> </ol> <p>備考：IPMI システムイベントログを参照することにより、詳細なエラー内容が判ります。また、CPU 交換時の CPU ブレードの再立ち上げ後、BIOS セットアップを起動し、「Main」 - 「Processor Settings」 - 「Processor Retest」を Yes に変更し、「Exit」 - 「Exit Saving Changes」を実行してください。</p>
0BC1 POST detected start-up failure of 2nd Processor	CPU#2 の起動時エラーを検出した。	
0BC2 POST detected start-up failure of 3rd Processor	CPU#3 の起動時エラーを検出した。	
0BC3 POST detected start-up failure of 4th Processor	CPU#4 の起動時エラーを検出した。	

ディスプレイ上のエラー メッセージ	意 味	対処方法
0BD1 1st SMBus device Error detected	CPU ユニット内部、あるいは外部の SMBus にてエラーを検出した。	1. 以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの再立ち上げ（リセット）を実施してください。 *OS からの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESET スイッチ *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager からの制御 2. 以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON してください。 *OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON *POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager からの制御 3. OS からの制御、あるいは POWER スイッチを押すことにより、CPU ブレードの電源を OFF し、CPU ブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWER スイッチを押し、電源を ON してください。 4. CPU ブレードを交換してください。 5. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
0BD4 2nd SMBus device Error detected	CPU ユニット内部の SMBus、あるいは SMBus デバイスにてエラーを検出した。	1. 以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの再立ち上げ（リセット）を実施してください。 *OS からの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESET スイッチ *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager からの制御 2. 以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON してください。 *OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON *POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager からの制御 3. OS からの制御、あるいは POWER スイッチを押すことにより、CPU ブレードの電源を OFF し、CPU ブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWER スイッチを押し、電源を ON してください。 4. CPU ブレードを交換してください。 5. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
0BD7 3rd SMBus device Error detected		
0BDA 4th SMBus device Error detected		
0BDD 5th SMBus device Error detected		
0BE0 6th SMBus device Error detected		

ディスプレイ上のエラー メッセージ	意 味	対処方法
8120 Unsupported DIMM detected in DIMM group#1	DIMM Group#1(DIMM#01/02)にサポートしていないDIMMが搭載されていることを検出した。	1. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。 *OSからの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESET スイッチ *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager からの制御 2. 増設、あるいは交換したDIMM Groupを交換してください。 3. エラーが発生したDIMM Groupを交換してください。 4. CPUブレードを交換してください。 5. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
8121 Unsupported DIMM detected in DIMM group#2	DIMM Group#2(DIMM#03/04)にサポートしていないDIMMが搭載されていることを検出した。	
8122 Unsupported DIMM detected in DIMM group#3	DIMM Group#3(DIMM#05/06)にサポートしていないDIMMが搭載されていることを検出した。	
8123 Unsupported DIMM detected in DIMM group#4	DIMM Group#4(DIMM#07/08)にサポートしていないDIMMが搭載されていることを検出した。	
8124 Unsupported DIMM detected in DIMM group#5	DIMM Group#5(DIMM#09/10)にサポートしていないDIMMが搭載されていることを検出した。	
8125 Unsupported DIMM detected in DIMM group#6	DIMM Group#6(DIMM#11/12)にサポートしていないDIMMが搭載されていることを検出した。	
8126 Unsupported DIMM detected in DIMM group#7	DIMM Group#7(DIMM#13/14)にサポートしていないDIMMが搭載されていることを検出した。	
8127 Unsupported DIMM detected in DIMM group#1	DIMM Group#8(DIMM#15/16)にサポートしていないDIMMが搭載されていることを検出した。	
8130 Mismatch DIMM Type detected in DIMM group#1	DIMM Group#1(DIMM#01/02)にDIMMの種類が一致していないDIMMが搭載されていることを検出した。	1. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。 *OSからの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESET スイッチ *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager からの制御 2. 増設、あるいは交換したDIMM Groupの取り付けの状態を確認してください。 3. 増設、あるいは交換したDIMM Groupを交換してください。 4. エラーが発生したDIMM Groupを交換してください。 5. CPUブレードを交換してください。 6. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
8131 Mismatch DIMM Type detected in DIMM group#2	DIMM Group#2(DIMM#03/04)にDIMMの種類が一致していないDIMMが搭載されていることを検出した。	
8132 Mismatch DIMM Type detected in DIMM group#3	DIMM Group#3(DIMM#05/06)にDIMMの種類が一致していないDIMMが搭載されていることを検出した。	
8133 Mismatch DIMM Type detected in DIMM group#4	DIMM Group#4(DIMM#07/08)にDIMMの種類が一致していないDIMMが搭載されていることを検出した。	
8134 Mismatch DIMM Type detected in DIMM group#5	DIMM Group#5(DIMM#09/10)にDIMMの種類が一致していないDIMMが搭載されていることを検出した。	
8135 Mismatch DIMM Type detected in DIMM group#6	DIMM Group#6(DIMM#11/12)にDIMMの種類が一致していないDIMMが搭載されていることを検出した。	
8136 Mismatch DIMM Type detected in DIMM group#7	DIMM Group#7(DIMM#13/14)にDIMMの種類が一致していないDIMMが搭載されていることを検出した。	
8137 Mismatch DIMM Type detected in DIMM group#8	DIMM Group#8(DIMM#15/16)にDIMMの種類が一致していないDIMMが搭載されていることを検出した。	

ディスプレイ上のエラー メッセージ	意 味	対処方法
8140 DIMM group #1 with error is enabled	DIMM Group#1(DIMM#01/02)でエラーを検出したが、強制的に起動した。	1. BIOS セットアップを起動し、「Advanced」 - 「Memory Configuration」 - 「Memory Retest」を Yes に変更し、「Exit」 - 「Exit Saving Changes」を実行してください。 2. エラーが発生した DIMM Group の取り付け状態を確認してください。 3. エラーが発生した DIMM Group を交換してください。 4. CPU ブレードを交換してください。 5. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。  備考：IPMI システムイベントログを参照することにより、詳細なエラー内容が判ります。また、交換時の CPU ブレードの再立ち上げ後、「Advanced」 - 「Memory Configuration」 - 「Memory Retest」を Yes に変更し、「Exit」 - 「Exit Saving Changes」を実行してください。
8141 DIMM group #2 with error is enabled	DIMM Group#2(DIMM#03/04)でエラーを検出したが、強制的に起動した。	
8142 DIMM group #3 with error is enabled	DIMM Group#3(DIMM#05/06)でエラーを検出したが、強制的に起動した。	
8143 DIMM group #4 with error is enabled	DIMM Group#4(DIMM#07/08)でエラーを検出したが、強制的に起動した。	
8144 DIMM group #5 with error is enabled	DIMM Group#5(DIMM#09/10)でエラーを検出したが、強制的に起動した。	
8145 DIMM group #6 with error is enabled	DIMM Group#6(DIMM#11/12)でエラーを検出したが、強制的に起動した。	
8146 DIMM group #7 with error is enabled	DIMM Group#7(DIMM#13/14)でエラーを検出したが、強制的に起動した。	
8147 DIMM group #8 with error is enabled	DIMM Group#8(DIMM#15/16)でエラーを検出したが、強制的に起動した。	
8150 NVRAM Cleared By Jumper	ジャンパ設定により NVRAM/CMOS をクリアしたことを検出した。	保守サービス会社に連絡してください。
8151 Password Cleared By Jumper	ジャンパ設定によりパスワードをクリアしたことを検出した。	
8160 Mismatch Processor speed detected on Processor 1	CPU#1 にて不正な周波数を検出した。	1. BIOS セットアップを起動し、「Main」 - 「Processor Settings」 - 「Processor Retest」を Yes に変更し、「Exit」 - 「Exit Saving Changes」を実行してください。 2. 増設、または交換した CPU を交換してください。 3. エラーが発生した CPU を交換してください。 4. CPU ブレードを交換してください。 5. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。  備考：IPMI システムイベントログを参照することにより、詳細なエラー内容が判ります。また、CPU 交換時の CPU ブレードの再立ち上げ後、BIOS セットアップを起動し、「Main」 - 「Processor Settings」 - 「Processor Retest」を Yes に変更し、「Exit」 - 「Exit Saving Changes」を実行してください。
8161 Mismatch Processor speed detected on Processor 2	CPU#2 にて不正な周波数を検出した。	
8162 Mismatch Processor speed detected on Processor 3	CPU#3 にて不正な周波数を検出した。	
8163 Mismatch Processor speed detected on Processor 4	CPU#4 にて不正な周波数を検出した。	
8170 Processor 1 not operating at intended frequency	CPU#1 にて周波数の異常を検出した。	1. BIOS セットアップを起動し、「Main」 - 「Processor Settings」 - 「Processor Retest」を Yes に変更し、「Exit」 - 「Exit Saving Changes」を実行してください。 2. 増設、または交換した CPU を交換してください。 3. エラーが発生した CPU を交換してください。 4. CPU ブレードを交換してください。 5. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。  備考：IPMI システムイベントログを参照することにより、詳細なエラー内容が判ります。また、CPU 交換時の CPU ブレードの再立ち上げ後、BIOS セットアップを起動し、「Main」 - 「Processor Settings」 - 「Processor Retest」を Yes に変更し、「Exit」 - 「Exit Saving Changes」を実行してください。
8171 Processor 2 not operating at intended frequency	CPU#2 にて周波数の異常を検出した。	
8172 Processor 3 not operating at intended frequency	CPU#3 にて周波数の異常を検出した。	
8173 Processor 4 not operating at intended frequency	CPU#4 にて周波数の異常を検出した。	

ディスプレイ上のエラー メッセージ	意 味	対処方法
817F All Processor not operating at intend- ed frequency	すべてのCPU にて周波数の異常 を検出した。	1. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ（リセット）を実施してください。 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESET スイッチ *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、 または DianaScope Manager からの制御 2. CPUブレードを交換してください。 3. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
8180 Processor #1 Error	POST が起動される前に、 CPU#1 にて致命的なエラーが発生したことを示します。	そのまま運用 / 稼働を続けることができますが、故障部品の交換を実施してください。 1. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ（リセット）を実施してください。 *OS からの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESET スイッチ *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、 または DianaScope Manager からの制御
8181 Processor #2 Error	POST が起動される前に、 CPU#2 にて致命的なエラーが発生したことを示します。	2. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON してください。 *OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON *POWER スイッチを押し、電源を OFF し、 POWER スイッチを押し、電源を ON *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、 または DianaScope Manager からの制御
8182 Processor #3 Error	POST が起動される前に、 CPU#3 にて致命的なエラーが発生したことを示します。	3. エラーが発生した CPU の取り付け状態を確認してください。 4. エラーが発生した CPU のヒートシンクの取り付け状態を確認してください。 5. エラーが発生した CPU を交換してください。 6. CPUブレードを交換してください。 7. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
8183 Processor #4 Error	POST が起動される前に、 CPU#4 にて致命的なエラーが発生したことを示します。	
81A0 Cache Cautionary status detected on Processor 1	CPU#1 のキャッシュが警告レベルの状態であることを検出した。	致命的な障害ではありませんので、すぐに交換する必要はありません。 そのまま運用 / 稼働を続けることができます。 1. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ（リセット）を実施してください。 *OS からの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESET スイッチ *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、 または DianaScope Manager からの制御
81A1 Cache Cautionary status detected on Processor 2	CPU#2 のキャッシュが警告レベルの状態であることを検出した。	2. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON してください。 *OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON *POWER スイッチを押し、電源を OFF し、 POWER スイッチを押し、電源を ON *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、 または DianaScope Manager からの制御
81A2 Cache Cautionary status detected on Processor 3	CPU#3 のキャッシュが警告レベルの状態であることを検出した。	3. エラーが発生した CPU の取り付け状態を確認してください。 4. エラーが発生した CPU のヒートシンクの取り付け状態を確認してください。 5. エラーが発生した CPU を交換してください。 6. CPUブレードを交換してください。 7. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
81A3 Cache Cautionary status detected on Processor 4	CPU#4 のキャッシュが警告レベルの状態であることを検出した。	

ディスプレイ上のエラー メッセージ	意 味	対処方法
8200 Online Spare memory was not ready	オンラインスペアメモリ機能を有効にできる DIMM 構成ではないことを検出した。	1. BIOS セットアップを起動し、「Advanced」 - 「Memory Configuration」の項目を確認し てください。 2. 以下のいずれかの方法により、CPU ブレー ドの再立ち上げ(リセット)を実施してくだ さい。 *OS からの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESET スイッチ *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、 または DianaScope Manager からの制御 3. DIMM の取り付け状態を確認してください。 4. DIMM を交換してください。 5. CPU ブレードを交換してください。 6. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社 に連絡してください。
8201 Mirroring Memory was not ready	メモリミラーリング機能を有効 にできる DIMM 構成ではないこ とを検出した。	1. BIOS セットアップを起動し、「Advanced」 - 「Memory Configuration」の項目を確認し てください。 2. 以下のいずれかの方法により、CPU ブレー ドの再立ち上げ(リセット)を実施してくだ さい。 *OS からの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESET スイッチ *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウ ザ、または DianaScope Manager からの制御 3. DIMM の取り付け状態を確認してください。 4. DIMM を交換してください。 5. CPU ブレードを交換してください。 6. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社 に連絡してください。
8400 Onboard PCIE#1 Link Failure	CPU ユニット内のバス接続のエ ラーを検出した。	1. 以下のいずれかの方法により、CPU ブレー ドの再立ち上げ(リセット)を実施してくだ さい。 *OS からの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESET スイッチ *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウ ザ、または DianaScope Manager からの制 御
8401 Onboard PCIE#2 Link Failure		2. 以下のいずれかの方法により、CPU ブレー ドの電源を一旦 OFF し、電源を ON してく ださい。 *OS から電源を OFF し、POWER スイッチ を押し、電源を ON *POWER スイッチを押し、電源を OFF し、 POWER スイッチを押し、電源を ON *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、 または DianaScope Manager からの制御
8402 Onboard PCIE#3 Link Failure		3. OS からの制御、あるいは POWER スイッチ を押すことにより、CPU ブレードの電源を OFF し、CPU ブレードをブレード収納ユ ニットから一旦取り出し、再度取り付け直 し、POWER スイッチを押し、電源を ON し てください。
8403 Onboard PCIE#4 Link Failure		4. CPU ブレードを交換してください。 5. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社 に連絡してください。
8404 Onboard PCIE#5 Link Failure		備考:「8403: Onboard PCIE#4 Link Failure」の 場合、以下の確認も実施してください。 * CPU ユニットと SAS ユニットを接続する信 号ケーブルの取り付け状態 * SAS ユニット上の DIMM の取り付け状態

ディスプレイ上のエラー メッセージ	意 味	対処方法
8410 Mezzanine Slot 1 PCIe Link Failure	メザニン拡張スロット1に取り付けたメザニンカードのバス接続のエラーを検出した。	1. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。 *OSからの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESET スイッチ *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Managerからの制御
8411 Mezzanine Slot 2 PCIe Link Failure	メザニン拡張スロット2に取り付けたメザニンカードのバス接続のエラーを検出した。	2. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON してください。 *OSから電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON *POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Managerからの制御
8412 Mezzanine Slot 3 PCIe Link Failure	メザニン拡張スロット3に取り付けたメザニンカードのバス接続のエラーを検出した。	3. OSからの制御、あるいは POWER スイッチを押すことにより、CPUブレードの電源を OFF し、CPUブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWER スイッチを押し、電源を ON してください。
8413 Mezzanine Slot 4 PCIe Link Failure	メザニン拡張スロット4に取り付けたメザニンカードのバス接続のエラーを検出した。	4. エラーが発生したメザニンカードの取り付け状態を確認してください。 5. エラーが発生したメザニンカードを交換してください。 6. CPUブレードを交換してください。 7. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
8414 Upper I/O Blade PCIe Link Failure	上位側に取り付けた増設HDDブレードとCPUブレード間のバス接続のエラーを検出した。	1. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。 *OSからの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESET スイッチ *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Managerからの制御
8415 Lower I/O Blade PCIe Link Failure	下位側に取り付けた増設HDDブレードとCPUブレード間のバス接続のエラーを検出した。	2. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON してください。 *OSから電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON *POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Managerからの制御 3. OSからの制御、あるいは POWER スイッチを押すことにより、CPUブレードの電源を OFF し、CPUブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWER スイッチを押し、電源を ON してください。 4. OSからの制御、あるいは POWER スイッチを押すことにより、CPUブレードの電源を OFF し、増設 HDD ブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWER スイッチを押し、電源を ON してください。 5. エラーが発生した増設HDDブレードを交換してください。 6. CPUブレードを交換してください。 7. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。



ディスプレイ上のエラー メッセージ	意 味	対処方法
8420 Onboard PCIe#1 Link Width Error	CPU ユニット内のバス接続性能低下を検出した。	致命的な障害ではありませんが、性能が低下する場合があります。 すぐに交換する必要はありません。そのまま運用 / 稼働を続けることができます。 1. 以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの再立ち上げ（リセット）を実施してください。 *OS からの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESET スイッチ *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager からの制御 2. CPU ブレードを交換してください。 3. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。  備考 : 「8423: Onboard PCIe#4 Link Width Error」の場合、以下の確認も実施してください。 * CPU ユニットと SAS ユニットを接続する信号ケーブルの取り付け状態 * SAS ユニット上の DIMM の取り付け状態。
8421 Onboard PCIe#2 Link Width Error		
8422 Onboard PCIe#3 Link Width Error		
8423 Onboard PCIe#4 Link Width Error		
8424 Onboard PCIe#5 Link Width Error		
8430 Mezzanine Slot 1 PCIe Link Width Error	メザニン拡張スロット 1 に取り付けたメザニンカードのバス接続性能低下を検出した。	致命的な障害ではありませんが、性能が低下する場合があります。 すぐに交換する必要はありません。そのまま運用 / 稼働を続けることができます。 1. 以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの再立ち上げ（リセット）を実施してください。 *OS からの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESET スイッチ *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager からの制御 2. エラーが発生したメザニンカードの取り付け状態を確認してください。 3. エラーが発生したメザニンカードを交換してください。 4. CPU ブレードを交換してください。 5. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
8431 Mezzanine Slot 2 PCIe Link Width Error	メザニン拡張スロット 2 に取り付けたメザニンカードのバス接続性能低下を検出した。	
8432 Mezzanine Slot 3 PCIe Link Width Error	メザニン拡張スロット 3 に取り付けたメザニンカードのバス接続性能低下を検出した。	
8433 Mezzanine Slot 4 PCIe Link Width Error	メザニン拡張スロット 4 に取り付けたメザニンカードのバス接続性能低下を検出した。	
8434 Upper I/O Blade PCIe Link Width Error	上位側に取り付けた増設 HDD ブレードと CPU ブレード間のバス接続性能低下を検出した。	
8435 Lower I/O Blade PCIe Link Width Error	下位側に取り付けた増設 HDD ブレードと CPU ブレード間のバス接続性能低下を検出した。	致命的な障害ではありませんが、性能が低下する場合があります。 すぐに交換する必要はありません。そのまま運用 / 稼働を続けることができます。 1. 以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの再立ち上げ（リセット）を実施してください。 *OS からの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESET スイッチ *EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager からの制御 2. エラーが発生した増設 HDD ブレードの取り付け状態を確認してください。 3. CPU ブレードの取り付け状態を確認してください。 4. エラーが発生した増設 HDD ブレードの再取り付けを実施してください。 5. エラーが発生した増設 HDD ブレードを交換してください。 6. CPU ブレードを交換してください。 7. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。



ディスプレイ上のエラー メッセージ	意 味	対処方法
8450 Can't Read FRU on Mezzanine Slot 1	メザニン拡張スロット1に取り付けたメザニンカードのFRUデータのエラーを検出した。	1. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ（リセット）を実施してください。 *OSからの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESETスイッチ *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御
8451 Can't Read FRU on Mezzanine Slot 2	メザニン拡張スロット2に取り付けたメザニンカードのFRUデータのエラーを検出した。	2. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONしてください。 *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御
8452 Can't Read FRU on Mezzanine Slot 3	メザニン拡張スロット3に取り付けたメザニンカードのFRUデータのエラーを検出した。	3. OSからの制御、あるいはPOWERスイッチを押すことにより、CPUブレードの電源をOFFし、CPUブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWERスイッチを押し、電源をONしてください。
8453 Can't Read FRU on Mezzanine Slot 4	メザニン拡張スロット4に取り付けたメザニンカードのFRUデータのエラーを検出した。	4. エラーが発生したメザニンカードの取り付け状態を確認してください。 5. エラーが発生したメザニンカードを交換してください。 6. CPUブレードを交換してください。 7. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
Resource conflict	CPUブレード内、あるいはメザニンカード上のデバイスのリソースが競合したことを検出した。	1. 本装置に増設HDDブレードAD106aを接続している場合、次ページを参照して増設HDDブレードAD106aおよびメザニンカードの取り付け枚数を確認してください。 2. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ（リセット）を実施してください。 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESETスイッチ *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御
Expansion Rom not initialized	CPUブレード内、あるいはメザニンカードの拡張ROMが初期化されなかったことを検出した。	3. メザニンカードの取り付け状態を確認してください。 4. メザニンカードを交換してください。 5. CPUブレードを交換してください。 6. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
Invalid System Configuration Data	システム構成データ(ESCD)の不正を検出した。	1. BIOSセットアップを起動し、「Advanced」-「PCI Configuration」、あるいは「Advanced」-「PCI Configuration」-「Onboard NIC」にて、拡張ROMの使用頻度が低いデバイスに対して、Option ROM Scan項目をDisabledに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実行してください。
System Configuration Data Read Error	システム構成データ(ESCD)リードエラーを検出した。	2. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ（リセット）を実施してください。 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESETスイッチ *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御
System Configuration Data Write Error	システム構成データ(ESCD)ライトエラーを検出した。	3. メザニンカードの取り付け状態を確認してください。 4. メザニンカードを交換してください。 5. CPUブレードを交換してください。 6. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

ディスプレイ上のエラーメッセージ	意 味	対処方法
WARNING: IRQ not configured	デバイスの割り込みが正しく設定されなかったことを検出した。	<ol style="list-style-type: none"> <li>以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの再立ち上げ（リセット）を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*「Ctrl + Alt + Del」キー入力</li> <li>*RESET スイッチ</li> <li>*EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager からの制御</li> </ul> </li> <li>メザニンカードの取り付け状態を確認してください。</li> <li>メザニンカードを交換してください。</li> <li>CPU ブレードを交換してください。</li> <li>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</li> </ol>

PCIに関するエラーメッセージの「slot」は、メザニン拡張スロットを示しています。  
例えば、以下のようなエラーメッセージが出力された場合、「slot 01」はメザニン拡張スロット1を示しています。

#### ERROR

Expansion Rom not initialized - PCI Network Controller in slot 01

また、「slot 5」は上位側に取り付けた増設HDDブレード、「slot 6」は下位側に取り付けた増設HDDブレードを示しています。

## その他のPOSTエラー

次のエラーはディスプレイに表示されませんが、システムイベントログに登録されます。

POST エラーコード	意 味	対処方法
02F0	アプリケーションプロセッサ初期化中にて、異常を検出した。	ディスプレイ装置の画面に表示された他のPOSTエラーメッセージの意味と対処方法を確認してください。

## Resource conflict エラー

本装置に増設HDDブレード AD106aを接続した場合、本装置および増設HDDブレード AD106aに取り付けできるメザニンカードの枚数に制限があります。以下の表を参照して、合計点数が11点以下になるように増設HDDブレード AD106aおよびメザニンカードの接続数を調整してください。最新の点数情報については、お買い求めの販売店に確認してください。

製品名	点数
N8404-001 増設HDDブレード AD106a	2
N8403-017 1000BASE-T(2ch)接続ボード	1
N8403-018 FibreChanelコントローラ(2ch)	1
N8403-020 1000BASE-T(4ch)接続ボード	2
N8403-024 10GbE(2ch)接続ボード	0

2009年7月末現在

## ランプによるエラーメッセージ

CPUブレードやドライブキャリア（ハードディスクドライブ）、ブレード収納ユニットにあるランプはさまざまな状態を点灯、点滅、消灯によるパターンや色による表示でユーザーに通知します。「故障かな？」と思ったらランプの表示を確認してください。ランプ表示とその意味については「ハードウェア編」の108ページをご覧ください。

## Windowsのエラーメッセージ

Windows Server 2003の起動後に致命的なエラー（STOPエラーやシステムエラー）が起きるとディスプレイ装置の画面がブルーに変わり、エラーに関する詳細なメッセージが表示されます。

```
*** STOP: 0x0000000A (0x00000074, 0x00000002, 0x00000001, 0x80108E7A)
IRQL_NOT_LESS_OR_EQUAL*** Address 80108E7A has base at 8010000 _ ntoskrnl.exe
```

画面に表示されたメッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。  
また、このエラーが起きると自動的にメモリダンプを実行し任意のディレクトリにメモリダンプのデータを保存します（「メモリダンプ（デバッグ情報）の設定」（Windows Server 2003 x64 Editions、Windows Server 2003は41ページを参照））。のちほど保守サービス会社の保守員からこのデータを提供していただくよう依頼される場合があります。MOやDATなどのメディアにファイルをコピーしての保守員に渡せるよう準備しておいてください。



STOPエラーやシステムエラーが発生しシステムを再起動したとき、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのまま起動してください。

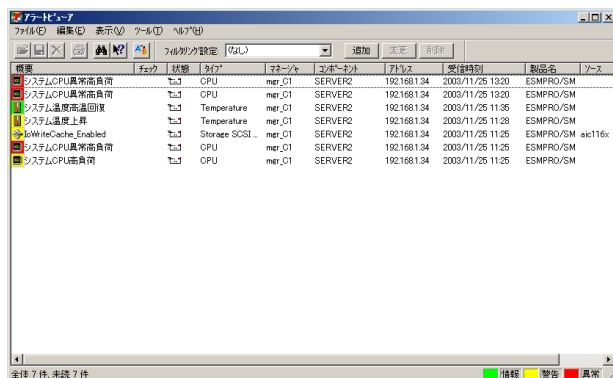


このファイルをメディアにコピーする前に、イベントビューアを起動して、システムイベントログでSave Dumpのイベントログが記録され、メモリダンプが保存されたことを確認してください。

このほかにもディスクやネットワーク、プリンタなど内蔵デバイスや周辺機器にエラーが起きた場合にも警告メッセージが表示されます。メッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。

## サーバ管理アプリケーションからのエラーメッセージ

ESMPRO/ServerAgentやESMPRO/ServerManager、GAMServerなどの管理ツールを本装置や管理PCへインストールしておくこと、何らかの障害が起きたときに管理PCや本体に接続しているディスプレイ装置から障害の内容を知ることができます。



The screenshot shows the ESMPRO/ServerAgent application window. It has a menu bar (File, Edit, View, Tools, Help) and a toolbar. Below the toolbar is a table with columns: Name, Type, Agent, Host, IP, Date, and Source. The table lists several system events, including CPU temperature warnings and system status changes.

名前	タイプ	エージェント	ホスト	IP	受信時刻	製品名	ソース
システムCPU異常高負荷	Warning	mer_01	SERVER2	192.168.1.34	2003/11/25 13:20	ESMPRO/SM	
システムCPU異常高負荷	Warning	mer_01	SERVER2	192.168.1.34	2003/11/25 13:20	ESMPRO/SM	
システム温度高温度回復	Warning	mer_01	SERVER2	192.168.1.34	2003/11/25 11:35	ESMPRO/SM	
システム温度上昇	Warning	mer_01	SERVER2	192.168.1.34	2003/11/25 11:28	ESMPRO/SM	
WriteCache_Enabled	Warning	mer_01	SERVER2	192.168.1.34	2003/11/25 11:25	ESMPRO/SM	aic110x
システムCPU異常高負荷	Warning	mer_01	SERVER2	192.168.1.34	2003/11/25 11:25	ESMPRO/SM	
システムCPU異常高負荷	Warning	mer_01	SERVER2	192.168.1.34	2003/11/25 11:25	ESMPRO/SM	

At the bottom of the window, there is a status bar with the text "全件 7 件、未読 7 件" and three colored buttons: green (情報), yellow (警告), and red (異常).

各種アプリケーションのインストールや運用方法についてはソフトウェア編、またはオンラインドキュメントを参照してください。

ESMPROを使ったシステム構築や各種設定の詳細についてはオンラインヘルプで詳しく説明されています。

## 仮想LCD上のエラーメッセージ

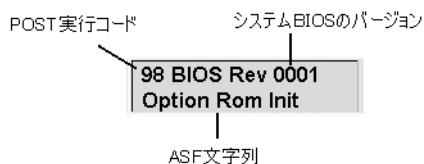
仮想LCDには、POST実行状態および運用中やDC OFF(AC電源はON)の間に発生したエラー内容を表示します。POST中にエラーを検出した場合は、POSTが終了した後、仮想LCD上にPOSTエラーコードを表示します。266ページの表を参照して、POSTエラーコードの意味と対処方法を確認してください。

EXPRESSSCOPEエンジンやDianaScopeのリモートマネージメント機能の仮想LCD(16桁×2行)により、管理対象であるCPUブレードの状態を表示することができます。



- 保守サービス会社に連絡するときには、仮想LCDの表示をメモしておいてください。保守を行うときに重要な情報となります。
- 保守を行うときにIPMI情報も有用な情報となります。IPMI情報の採取方法は334ページを参照してください。
- 対処方法は、OSからの制御による「再立ち上げ(リセット)」や「電源OFF」を優先して実施してください。

### POST動作中



### POSTエラーコード

0B90

ASF文字列

ASF文字列	意 味
Memory Init	メモリのテストと初期化
AP Init	マルチプロセッサの初期化
Enter Password	「Supervisor」または「User」レベルのパスワード入力待ち
Entering Setup	BIOSセットアップ起動時
USB Init	USBデバイスの検出と初期化
PCI Device Init	PCIデバイスのコンフィグレーション
Option ROM Init	PCIデバイスのオプションROM展開
Video Init	ビデオコントローラの初期化
Cache Init	プロセッサキャッシュの設定
SMBus Init	SMBusのコンフィグレーション
Keyboard Init	キーボードの検出
BMC Init	BMCエラーのチェック
Memory Failure	POST中に、DIMMを全く検出できなかった、あるいは致命的なエラーが発生したDIMMを検出し、使用できるDIMMが無かったことを示します。

POST実行コード

主なPOST実行コード	意 味
28h	メモリのテストと初期化
2Ah	メモリのゼロクリア
2Ch	メモリのアドレスラインテスト
2Eh	メモリのデータラインテスト
0Ah	プロセッサの初期化
2Fh	プロセッサキャッシュの設定
38h	システムBIOSのShadowing
67h	アプリケーションプロセッサの初期化
69h	SMIの初期化
49h	PCIデバイスの初期化（リソース割り当て）
55h	USBの初期化
4Ah	ビデオコントローラの初期化
4Ch	ビデオBIOSのShadowing
59h	POST画面表示機能の初期化

主なPOST実行 コード	意 味
C6h	コンソールダイレクション機能の初期化
4Eh	コピーライトの表示
50h	プロセッサ情報の表示
60h	拡張メモリのテスト
62h	拡張メモリのアドレステスト
68h	キャッシュのコンフィグレーション
6Ah	キャッシュサイズの表示
87h	I/Oデバイスのコンフィグレーション
98h	PCIデバイスのオプションROM展開
93h	マルチプロセッサのコンフィグレーション
9Ch	SMIのセットアップ
BAh	SMBIOSの初期化
C3h	POSTエラーの表示
ACh	BIOSセットアップの起動
B0h	POSTエラーのチェック
BDh	Bootメニューの表示
97h	MPテーブルの作成
C0h	ブート開始処理

その他のメッセージ

DIMM 1 C Err

Prepare To Boot  
AmbientTempAlm07

1行目の表示

- STATUSランプが緑色に点灯しているとき

メッセージ	意 味	対処方法
Prepare To Boot	POST が正常に終了した。	エラーではありません。

- STATUSランプが赤色に点滅しているとき

メッセージ	意 味	対処方法
ErrPause in POST	重要な POST エラーが発生し、キー入力待ち状態になっている。あるいは、重要な POST エラーが発生したが、強制的に POST を終了した。	<p>ディスプレイ装置の画面に表示された POST エラーメッセージ、あるいは IPMI システムイベントログに登録された POST エラーコードにより、266 ページの表を参照して、POST エラーコードの意味と対処方法を確認する。</p> <p>以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの再立ち上げ（リセット）を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>* OS からの制御により再立ち上げを実施する。</li><li>* 「Ctrl + Alt + Del」キーを入力する。</li><li>* RESET スイッチを押す。</li><li>* EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。</li></ul> <p>以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>* OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。</li><li>* POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。</li><li>* EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。</li></ul> <p>OS からの制御、あるいは POWER スイッチを押すことにより、CPU ブレードの電源を OFF し、CPU ブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。</p> <p>CPU ブレードを交換する。</p> <p>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p>
BIOSRecovery run	システム BIOS ROM に致命的なエラーが発生した。	<p>以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの再立ち上げ（リセット）を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>* RESET スイッチを押す。</li><li>* EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。</li></ul> <p>以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>* OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。</li><li>* POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。</li><li>* EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。</li></ul> <p>CPU ブレードを交換する。</p> <p>保守サービス会社に連絡してください。</p>



メッセージ	意 味	対処方法
DIMMG 1 Unc Err	DIMM ソケット 01/02 に取り付け た DIMM(DIMM Group#1) に て訂正不可能なエラーが発生し た。	以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの再立ち上 げ(リセット)を実施する。 * RESET スイッチを押す。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。
DIMMG 2 Unc Err	DIMM ソケット 03/04 に取り付け た DIMM(DIMM Group#2) に て訂正不可能なエラーが発生し た。	以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を一 旦 OFF し、電源を ON する。 * OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電 源を ON する。
DIMMG 3 Unc Err	DIMM ソケット 05/06 に取り付け た DIMM(DIMM Group#3) に て訂正不可能なエラーが発生し た。	* POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。
DIMMG 4 Unc Err	DIMM ソケット 07/08 に取り付け た DIMM(DIMM Group#4) に て訂正不可能なエラーが発生し た。	以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を一 旦 OFF し、電源を ON する。 * OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電 源を ON する。
DIMMG 5 Unc Err	DIMM ソケット 09/10 に取り付け た DIMM(DIMM Group#5) に て訂正不可能なエラーが発生し た。	* POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。
DIMMG 6 Unc Err	DIMM ソケット 11/12 に取り付け た DIMM(DIMM Group#6) に て訂正不可能なエラーが発生し た。	1. エラーが発生した DIMM Group の取り付け状態を確認 する。
DIMMG 7 Unc Err	DIMM ソケット 13/14 に取り付け た DIMM(DIMM Group#7) に て訂正不可能なエラーが発生し た。	2. エラーが発生した DIMM Group を交換する。  CPU ブレードを交換する。
DIMMG 8 Unc Err	DIMM ソケット 15/16 に取り付け た DIMM(DIMM Group#8) に て訂正不可能なエラーが発生し た。	問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してく ださい。
FSB 1 Unc Err	CPU#1 の内部、あるいは外部バ スにて訂正不可能なエラーが発 生した。	以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの再立ち上 げ(リセット)を実施する。 * RESET スイッチを押す。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。
FSB 2 Unc Err	CPU#2 の内部、あるいは外部バ スにて訂正不可能なエラーが発 生した。	以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を一 旦 OFF し、電源を ON する。 * OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電 源を ON する。
FSB 3 Unc Err	CPU#3 の内部、あるいは外部バ スにて訂正不可能なエラーが発 生した。	* POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。
FSB 4 Unc Err	CPU#4 の内部、あるいは外部バ スにて訂正不可能なエラーが発 生した。	1. エラーが発生した CPU の取り付け状態を確認する。 2. エラーが発生した CPU のヒートシンクの取り付け状態 を確認する。 3. エラーが発生した CPU を交換する。  CPU ブレードを交換する。  問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してく ださい。

メッセージ	意 味	対処方法
DIMMG 1 Unc Err	DIMM ソケット 01/02 に取り付け た DIMM(DIMM Group#1) に て訂正不可能なエラーが発生し た。	以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの再立ち上 げ(リセット)を実施する。 * RESET スイッチを押す。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。
DIMMG 2 Unc Err	DIMM ソケット 03/04 に取り付け た DIMM(DIMM Group#2) に て訂正不可能なエラーが発生し た。	以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を一 旦 OFF し、電源を ON する。 * OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電 源を ON する。
DIMMG 3 Unc Err	DIMM ソケット 05/06 に取り付け た DIMM(DIMM Group#3) に て訂正不可能なエラーが発生し た。	* POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。
DIMMG 4 Unc Err	DIMM ソケット 07/08 に取り付け た DIMM(DIMM Group#4) に て訂正不可能なエラーが発生し た。	以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を一 旦 OFF し、電源を ON する。 * OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電 源を ON する。
DIMMG 5 Unc Err	DIMM ソケット 09/10 に取り付け た DIMM(DIMM Group#5) に て訂正不可能なエラーが発生し た。	* POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。
DIMMG 6 Unc Err	DIMM ソケット 11/12 に取り付け た DIMM(DIMM Group#6) に て訂正不可能なエラーが発生し た。	1. エラーが発生した DIMM Group の取り付け状態を確認 する。 2. エラーが発生した DIMM Group を交換する。
DIMMG 7 Unc Err	DIMM ソケット 13/14 に取り付け た DIMM(DIMM Group#7) に て訂正不可能なエラーが発生し た。	CPU ブレードを交換する。
DIMMG 8 Unc Err	DIMM ソケット 15/16 に取り付け た DIMM(DIMM Group#8) に て訂正不可能なエラーが発生し た。	問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してく ださい。
FSB 1 Unc Err	CPU#1 の内部、あるいは外部バ スにて訂正不可能なエラーが発 生した。	以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの再立ち上 げ(リセット)を実施する。 * RESET スイッチを押す。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。
FSB 2 Unc Err	CPU#2 の内部、あるいは外部バ スにて訂正不可能なエラーが発 生した。	以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を一 旦 OFF し、電源を ON する。 * OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電 源を ON する。
FSB 3 Unc Err	CPU#3 の内部、あるいは外部バ スにて訂正不可能なエラーが発 生した。	* POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。
FSB 4 Unc Err	CPU#4 の内部、あるいは外部バ スにて訂正不可能なエラーが発 生した。	1. エラーが発生した CPU の取り付け状態を確認する。 2. エラーが発生した CPU のヒートシンクの取り付け状態 を確認する。 3. エラーが発生した CPU を交換する。
		CPU ブレードを交換する。  問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してく ださい。

メッセージ	意 味	対処方法
MEZ 1 Unc Err	メザニン拡張スロット1に取り付けたメザニンカードにて訂正不可能なエラーが発生した。	以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの再立ち上げ（リセット）を実施する。 * RESET スイッチを押す。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。
MEZ 2 Unc Err	メザニン拡張スロット2に取り付けたメザニンカードにて訂正不可能なエラーが発生した。	以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON する。 * OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。
MEZ 3 Unc Err	メザニン拡張スロット3に取り付けたメザニンカードにて訂正不可能なエラーが発生した。	1. エラーが発生したメザニンカードの取り付け状態を確認する。 2. エラーが発生したメザニンカードを交換する。  CPU ブレードを交換する。  問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
SB Unc Err1	SAS ユニットにて訂正不可能なエラーが発生した。	以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの再立ち上げ（リセット）を実施する。 * RESET スイッチを押す。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。
SB Unc Err2		以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON する。 * OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。  1. CPU ユニットと SAS ユニットの接続する信号ケーブルの取り付け状態を確認する。 2. SAS ユニット上の DIMM の取り付け状態を確認する。  CPU ブレードを交換する。  問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
PCIE Unc ErrX	CPU ユニット内にて訂正不可能なエラーが発生した。	以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの再立ち上げ（リセット）を実施する。 * RESET スイッチを押す。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。
Chipset UncErrX		以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON する。 * OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。
IO Unc ErrX		CPU ブレードを交換する。  問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	意 味	対処方法
FBD CH1 Unc Err	DIMM ソケット 01、05、09、13 に取り付けられた DIMM にて訂正不可能なエラーが発生した。	以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの再立ち上げ（リセット）を実施する。 * RESET スイッチを押す。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。  以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON する。 * OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。
FBD CH2 Unc Err	DIMM ソケット 02、06、10、14 に取り付けられた DIMM にて訂正不可能なエラーが発生した。	1. エラーが発生した DIMM Group#1、3、5、または 7 の取り付け状態を確認する。 2. エラーが発生した DIMM Group#1、3、5、または 7 を交換する。  CPU ブレードを交換する。  問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
FBD CH3 Unc Err	DIMM ソケット 03、07、11、15 に取り付けられた DIMM にて訂正不可能なエラーが発生した。	以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの再立ち上げ（リセット）を実施する。 * RESET スイッチを押す。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。  1. 以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON する。 * OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。
FBD CH4 Unc Err	DIMM ソケット 04、08、12、16 に取り付けられた DIMM にて訂正不可能なエラーが発生した。	2. エラーが発生した DIMM Group#2、4、6、または 8 を交換する。  CPU ブレードを交換する。  問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
Up Link Unc Err	CPU ブレードと上位側に取り付けた増設 HDD ブレード間にて、訂正不可能なエラーが発生した。	1. 以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの再立ち上げ（リセット）を実施する。 * OS からの制御 * 「Ctrl + Alt + Del」キー入力 * RESET スイッチ * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御 2. 以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON する。 * OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。
Dw Link Unc Err	CPU ブレードと下位側に取り付けた増設 HDD ブレード間にて、訂正不可能なエラーが発生した。	3. OS からの制御、あるいは POWER スイッチを押すことにより、CPU ブレードの電源を OFF し、CPU ブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWER スイッチを押し、電源を ON してください。 4. OS からの制御、あるいは POWER スイッチを押すことにより、CPU ブレードの電源を OFF し、増設 HDD ブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWER スイッチを押し、電源を ON してください。 5. エラーが発生した増設 HDD ブレードを交換してください。 6. CPU ブレードを交換する。  問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

● STATUSランプがアンバー色に点滅しているとき

メッセージ	意 味	対処方法
CPU Reconfigured	プロセッサが縮退された状態で起動した。	BIOS セットアップを起動し、「Main」-「Processor Settings」-「Processor Retest」を Yes に変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実行することにより、解決することもできます。  問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
Mem Reconfigured	メモリが縮退された状態で起動した。	BIOS セットアップを起動し、「Advanced」-「Memory Configuration」-「Memory Retest」を Yes に変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実行することにより、解決することもできます。  問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
DIMM 1 C Err	DIMM ソケット 01 に取り付けした DIMM にて訂正可能なエラーが多発した。	連続的に運用 / 稼動が可能ですが、OS からの制御により、CPU ブレードの再立ち上げ（リセット）を実施する。  連続的に運用 / 稼動が可能ですが、 1. エラーが発生した DIMM Group の取り付け状態を確認する。 2. エラーが発生した DIMM Group を交換する。  問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
DIMM 2 C Err	DIMM ソケット 02 に取り付けした DIMM にて訂正可能なエラーが多発した。	
DIMM 3 C Err	DIMM ソケット 03 に取り付けした DIMM にて訂正可能なエラーが多発した。	
DIMM 4 C Err	DIMM ソケット 04 に取り付けした DIMM にて訂正可能なエラーが多発した。	
DIMM 5 C Err	DIMM ソケット 05 に取り付けした DIMM にて訂正可能なエラーが多発した。	
DIMM 6 C Err	DIMM ソケット 06 に取り付けした DIMM にて訂正可能なエラーが多発した。	
DIMM 7 C Err	DIMM ソケット 07 に取り付けした DIMM にて訂正可能なエラーが多発した。	
DIMM 8 C Err	DIMM ソケット 08 に取り付けした DIMM にて訂正可能なエラーが多発した。	
DIMM 9 C Err	DIMM ソケット 09 に取り付けした DIMM にて訂正可能なエラーが多発した。	
DIMM 10 C Err	DIMM ソケット 10 に取り付けした DIMM にて訂正可能なエラーが多発した。	
DIMM 11 C Err	DIMM ソケット 11 に取り付けした DIMM にて訂正可能なエラーが多発した。	
DIMM 12 C Err	DIMM ソケット 12 に取り付けした DIMM にて訂正可能なエラーが多発した。	
DIMM 13 C Err	DIMM ソケット 13 に取り付けした DIMM にて訂正可能なエラーが多発した。	
DIMM 14 C Err	DIMM ソケット 14 に取り付けした DIMM にて訂正可能なエラーが多発した。	
DIMM 15 C Err	DIMM ソケット 15 に取り付けした DIMM にて訂正可能なエラーが多発した。	
DIMM 16 C Err	DIMM ソケット 16 に取り付けした DIMM にて訂正可能なエラーが多発した。	
Sparing FailOver	DIMM にて訂正可能なエラーが多発し、メモリオンラインスペアフェールオーバーとなった。（メモリオンラインスペア構築時）	

メッセージ	意 味	対処方法
DIMMG 1 Unc Err	DIMM ソケット 01/02 に取り付け けた DIMM(DIMM Group#1) にて 訂正不可能なエラーが発生し、メ モリミラーフェールオーバーが発 生した。(メモリミラー構築時)	<p>連続的に運用/ 稼動が可能です、OS からの制御によ り、CPU ブレードの再立ち上げ(リセット)を実施する。</p> <p>連続的に運用/ 稼動が可能です、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. エラーが発生した DIMM Group の取り付け状態を確認 する。</li> <li>2. エラーが発生した DIMM Group を交換する。</li> </ol> <p>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してく ださい。</p>
DIMMG 2 Unc Err	DIMM ソケット 03/04 に取り付け けた DIMM(DIMM Group#2) にて 訂正不可能なエラーが発生し、メ モリミラーフェールオーバーが発 生した。(メモリミラー構築時)	
DIMMG 3 Unc Err	DIMM ソケット 05/06 に取り付け けた DIMM(DIMM Group#3) にて 訂正不可能なエラーが発生し、メ モリミラーフェールオーバーが発 生した。(メモリミラー構築時)	
DIMMG 4 Unc Err	DIMM ソケット 07/08 に取り付け けた DIMM(DIMM Group#4) にて 訂正不可能なエラーが発生し、メ モリミラーフェールオーバーが発 生した。(メモリミラー構築時)	
DIMMG 5 Unc Err	DIMM ソケット 09/10 に取り付け けた DIMM(DIMM Group#5) にて 訂正不可能なエラーが発生し、メ モリミラーフェールオーバーが発 生した。(メモリミラー構築時)	
DIMMG 6 Unc Err	DIMM ソケット 11/12 に取り付け けた DIMM(DIMM Group#6) にて 訂正不可能なエラーが発生し、メ モリミラーフェールオーバーが発 生した。(メモリミラー構築時)	
DIMMG 7 Unc Err	DIMM ソケット 13/14 に取り付け けた DIMM(DIMM Group#7) にて 訂正不可能なエラーが発生し、メ モリミラーフェールオーバーが発 生した。(メモリミラー構築時)	
DIMMG 8 Unc Err	DIMM ソケット 15/16 に取り付け けた DIMM(DIMM Group#8) にて 訂正不可能なエラーが発生し、メ モリミラーフェールオーバーが発 生した。(メモリミラー構築時)	
Mirror B1 Fail	DIMM ソケット 01/02、05/06、 09/10、あるいは 13/14 に取り 付けた DIMM (DIMM Group#1、3、5、ある いは 7) にて訂正不可能なエラーが 発生し、メモリミラーフェール オーバーとなった。(メモリミ ラー構築時)	
Mirror B2 Fail	DIMM ソケット 03/04、07/08、 11/12、あるいは 15/16 に取り 付けた DIMM (DIMM Group#2、4、6、ある いは 8) にて訂正不可能なエラーが 発生し、メモリミラーフェール オーバーとなった。(メモリミ ラー構築時)	
Mirror FailOver	DIMM にて訂正不可能なエラー が発生し、メモリミラーフェール オーバーとなった。(メモリミ ラー構築時)	
MEZ 1 C Err	メザニン拡張スロット 1 に取り 付けたメザニンカードにて訂正 可能なエラーが多発した。	
MEZ 2 C Err	メザニン拡張スロット 2 に取り 付けたメザニンカードにて訂正 可能なエラーが多発した。	<p>連続的に運用/ 稼動が可能です、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. エラーが発生したメザニンカードの取り付け状態を確認 する。</li> <li>2. エラーが発生したメザニンカードを交換する。</li> </ol> <p>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してく ださい。</p>
MEZ 3 C Err	メザニン拡張スロット 3 に取り 付けたメザニンカードにて訂正 可能なエラーが多発した。	
MEZ 4 C Err	メザニン拡張スロット 4 に取り 付けたメザニンカードにて訂正 可能なエラーが多発した。	

メッセージ	意 味	対処方法
SB C Err1	SAS ユニットにて訂正可能なエラーが多発した。	<p>連続的に運用 / 稼動が可能ですが、OS からの制御により、CPU ブレードの再立ち上げ (リセット) を実施する。</p> <p>連続的に運用 / 稼動が可能ですが、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. CPU ユニットと SAS ユニットを接続する信号ケーブルの取り付け状態を確認する。</li> <li>2. SAS ユニット上の DIMM の取り付け状態を確認する。</li> </ol> <p>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p>
SB C Err2		
PCIE C ErrX	CPU ユニット内にて訂正可能なエラーが多発した。	<p>連続的に運用 / 稼動が可能ですが、OS からの制御により、CPU ブレードの再立ち上げ (リセット) を実施する。</p> <p>連続的に運用 / 稼動が可能ですが、CPU ブレードを交換する。</p> <p>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p>
Chipset C Err X		
FBD CH1 C Err	DIMM ソケット 01、05、09、13 に取り付けした DIMM にて訂正可能なエラーが多発した。	<p>連続的に運用 / 稼動が可能ですが、OS からの制御により、CPU ブレードの再立ち上げ (リセット) を実施する。</p> <p>連続的に運用 / 稼動が可能ですが、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. エラーが発生した DIMM Group#1、3、5、または 7 の取り付け状態を確認する。</li> <li>2. エラーが発生した DIMM Group#1、3、5、または 7 を交換する。</li> </ol> <p>CPU ブレードを交換する。</p> <p>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p>
FBD CH2 C Err	DIMM ソケット 02、06、10、14 に取り付けした DIMM にて訂正可能なエラーが多発した。	
FBD CH3 C Err	DIMM ソケット 03、07、11、15 に取り付けした DIMM にて訂正可能なエラーが多発した。	<p>連続的に運用 / 稼動が可能ですが、OS からの制御により、CPU ブレードの再立ち上げ (リセット) を実施する。</p> <p>連続的に運用 / 稼動が可能ですが、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. エラーが発生した DIMM Group#2、4、6、または 8 の取り付け状態を確認する。</li> <li>2. エラーが発生した DIMM Group#2、4、6、または 8 を交換する。</li> </ol> <p>CPU ブレードを交換する。</p> <p>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p>
FBD CH4 C Err		
Up Link C Err	CPU ブレードと上位側に取付けた増設 HDD ブレード間にて、訂正可能なエラーが多発した。	<p>連続的に運用 / 稼動が可能ですが、OS からの制御により、CPU ブレードの再立ち上げ (リセット) を実施する。</p> <p>連続的に運用 / 稼動が可能ですが、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. エラーが発生した増設 HDD ブレードの取り付け状態を確認する。</li> <li>2. CPU ブレードの取り付け状態を確認する。</li> <li>3. エラーが発生した増設 HDD ブレードの再取り付けを実施する。</li> <li>4. エラーが発生した増設 HDD ブレードを交換する。</li> <li>5. CPU ブレードを交換する。</li> </ol> <p>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p>
Dw Link C Err	CPU ブレードと下位側に取付けた増設 HDD ブレード間にて、訂正可能なエラーが多発した。	

● DIMM Group番号/ DIMM番号/Channel番号の一覧表

DIMM Group番号	DIMM番号	Channel番号
1	01	1
	02	2
2	03	3
	04	4
3	05	1
	06	2
4	07	3
	08	4
5	09	1
	10	2
6	11	3
	12	4
7	13	1
	14	2
8	15	3
	16	4



## 2行目の表示

## ● STATUSランプが赤色に点滅しているとき

メッセージ	意 味	対処方法
Proc1 IERR	CPU#1でエラーを検出した。	以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの再立ち上げ（リセット）を実施する。 * RESET スイッチを押す。 * EXPRESSSCOPEエンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。
Proc2 IERR	CPU#2でエラーを検出した。	以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON する。 * OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * EXPRESSSCOPEエンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。
Proc3 IERR	CPU#3でエラーを検出した。	1. エラーが発生した CPU の取り付け状態を確認する。 2. エラーが発生した CPU のヒートシンクの取り付け状態を確認する。 3. エラーが発生した CPU を交換する。
Proc4 IERR	CPU#4でエラーを検出した。	CPU ブレードを交換する。  問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
Proc1ThermalTrip	CPU#1の高温異常により強制的に電源 OFF を行った。	以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を ON する。 * POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * EXPRESSSCOPEエンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。
Proc2ThermalTrip	CPU#2の高温異常により強制的に電源 OFF を行った。	1. ブレード収納ユニットの FAN を確認する。 2. ブレード収納ユニットのユーザズガイドを参照し、正しい数量・位置の FAN が実装されているかを確認する。 3. FAN と CPU ブレードとの実装位置関係が正しいことを確認する。
Proc3ThermalTrip	CPU#3の高温異常により強制的に電源 OFF を行った。	4. CPU ブレードのヒートシンクの取り付け状態を確認する。 5. 設置環境が動作保障温度を満たしていることを確認する。
Proc4ThermalTrip	CPU#4の高温異常により強制的に電源 OFF を行った。	1. エラーが発生した CPU の取り付け状態を確認する。 2. エラーが発生した CPU のヒートシンクの取り付け状態を確認する。 3. エラーが発生した CPU を交換する。
		CPU ブレードを交換する。  問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	意 味	対処方法
Proc1Didn'tStart	CPU#1 が起動できなかった。	以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの再立ち上げ（リセット）を実施する。 * RESET スイッチを押す。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。
Proc2Didn'tStart	CPU#2 が起動できなかった。	
Proc3Didn'tStart	CPU#3 が起動できなかった。	
Proc4Didn'tStart	CPU#4 が起動できなかった。	
Proc1 Config Err	CPU#1 に未サポート CPU、不正な組合せの CPU、または異常な CPU が実装されている。	以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON する。 * OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。  1. CPU の取り付け状態を確認する。 2. CPU を交換する。
Proc2 Config Err	CPU#2 に未サポート CPU、不正な組合せの CPU、または異常な CPU が実装されている。	
Proc3 Config Err	CPU#3 に未サポート CPU、不正な組合せの CPU、または異常な CPU が実装されている。	
Proc4 Config Err	CPU#4 に未サポート CPU、不正な組合せの CPU、または異常な CPU が実装されている。	
WDT Timeout	ウォッチドックタイムアウトが発生した。	CPU ブレードを交換する。  問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
WDT Power Down	ウォッチドックタイムアウトにより強制電源 OFF を行った。	以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの再立ち上げ（リセット）を実施する。 * RESET スイッチを押す。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。  以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON する。 * OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。  問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
SMI Timeout	システム管理割り込み処理中にタイムアウトが発生した。	以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの再立ち上げ（リセット）を実施する。 * RESET スイッチを押す。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。  以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON する。 * OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。  問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	意 味	対処方法
DUMP Request!	DUMP スイッチが押された。	OS ダンプが完了するまで待つ。 完了しなかった場合、以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの再立ち上げ（リセット）を実施する。 * RESET スイッチを押す。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。  あるいは 以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON する。 * OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。 を実施する。  問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
Proc Missing	CPU が未実装である。	1. CPU の取り付け状態を確認する。 2. CPU を交換する。  CPU ブレードを交換する。  問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
MEZ1 Power Fault	メザニン拡張スロット 1 に取り付けしたメザニンカード上の電源回路の異常を検出した。	以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON する。 * OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。
MEZ2 Power Fault	メザニン拡張スロット 2 に取り付けしたメザニンカード上の電源回路の異常を検出した。	
MEZ3 Power Fault	メザニン拡張スロット 3 に取り付けしたメザニンカード上の電源回路の異常を検出した。	
MEZ4 Power Fault	メザニン拡張スロット 4 に取り付けしたメザニンカード上の電源回路の異常を検出した。	
AmbientTempAlm09	CPU ユニット内部の高温異常を検出した。	1. ブレード収納ユニットの FAN を確認する。 2. ブレード収納ユニットのユーザーズガイドを参照し、正しい数量・位置の FAN が実装されているかを確認する。 3. FAN と CPU ブレードとの実装位置関係が正しいことを確認する。 4. CPU ブレードのヒートシンクの取り付け状態を確認する。 5. 設置環境が動作保障温度を満たしていることを確認する。  CPU ブレードを交換する。  問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
AmbientTempAlm02	CPU ユニット内部の低温異常を検出した。	
Proc1 Therm % 09	CPU#1 の高温異常を検出した。	1. ブレード収納ユニットの FAN を確認する。 2. ブレード収納ユニットのユーザーズガイドを参照し、正しい数量・位置の FAN が実装されているかを確認する。 3. FAN と CPU ブレードとの実装位置関係が正しいことを確認する。 4. CPU ブレードのヒートシンクの取り付け状態を確認する。 5. 設置環境が動作保障温度を満たしていることを確認する。  1. エラーが発生した CPU の取り付け状態を確認する。 2. エラーが発生した CPU のヒートシンクの取り付け状態を確認する。 3. エラーが発生した CPU を交換する。  CPU ブレードを交換する。  問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
Proc2 Therm % 09	CPU#2 の高温異常を検出した。	
Proc3 Therm % 09	CPU#3 の高温異常を検出した。	
Proc4 Therm % 09	CPU#4 の高温異常を検出した。	

メッセージ	意 味	対処方法
Battery Alm09	リチウムバッテリー電圧異常（上限）を検出した。	以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONする。 * OS から電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 * POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。
Battery Alm02	リチウムバッテリー電圧異常（下限）を検出した。	OSからの制御、あるいはPOWERスイッチを押すことにより、CPUブレードの電源をOFFし、CPUブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWERスイッチを押し、電源をONする。  1. CPU ユニット上のリチウムバッテリーの取り付け状態を確認する。 2. CPU ユニット上のリチウムバッテリーを交換する。  問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
Proc1 VCCP Alm09	CPU#1 VCCP 電圧異常（上限）を検出した。	以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONする。 * OS から電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 * POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。
Proc1 VCCP Alm02	CPU#1 VCCP 電圧異常（下限）を検出した。	
Proc2 VCCP Alm09	CPU#2 VCCP 電圧異常（上限）を検出した。	
Proc2 VCCP Alm02	CPU#2 VCCP 電圧異常（下限）を検出した。	
Proc3 VCCP Alm09	CPU#3 VCCP 電圧異常（上限）を検出した。	OSからの制御、あるいはPOWERスイッチを押すことにより、CPUブレードの電源をOFFし、CPUブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWERスイッチを押し、電源をONする。  1. エラーが発生した CPU の取り付け状態を確認する。 2. エラーが発生した CPU のヒートシンクの取り付け状態を確認する。 3. エラーが発生した CPU を交換する。  CPUブレードを交換する。  問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
Proc3 VCCP Alm02	CPU#3 VCCP 電圧異常（下限）を検出した。	
Proc4 VCCP Alm09	CPU#4 VCCP 電圧異常（上限）を検出した。	
Proc4 VCCP Alm02	CPU#4 VCCP 電圧異常（下限）を検出した。	

メッセージ	意 味	対処方法
FSB VTT Alm09	FSB VTT 電圧異常(上限)を検出した。	以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON する。 * OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。
FSB VTT Alm02	FSB VTT 電圧異常(下限)を検出した。	
B1 FBD VTT Alm09	DIMM VTT 電圧異常(上限)を検出した。	OS からの制御、あるいは POWER スイッチを押すことにより、CPU ブレードの電源を OFF し、CPU ブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。
B1 FBD VTT Alm02	DIMM VTT 電圧異常(下限)を検出した。	
B2 FBD VTT Alm09	DIMM VTT 電圧異常(上限)を検出した。	CPU ブレードを交換する。
B2 FBD VTT Alm02	DIMM VTT 電圧異常(下限)を検出した。	
B1 FBD VCC Alm09	DIMM VCC 電圧異常(上限)を検出した。	問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
B1 FBD VCC Alm02	DIMM VCC 電圧異常(下限)を検出した。	
B2 FBD VCC Alm09	DIMM VCC 電圧異常(上限)を検出した。	
B2 FBD VCC Alm02	DIMM VCC 電圧異常(下限)を検出した。	
B1 FBD VDD Alm09	DIMM VDD 電圧異常(上限)を検出した。	
B1 FBD VDD Alm02	DIMM VDD 電圧異常(下限)を検出した。	
B2 FBD VDD Alm09	DIMM VDD 電圧異常(上限)を検出した。	
B2 FBD VDD Alm02	DIMM VDD 電圧異常(下限)を検出した。	
BB +1.5v Alm09	1.5V 電圧異常(上限)を検出した。	
BB +1.5v Alm02	1.5V 電圧異常(下限)を検出した。	
BB +3.3v Alm09	3.3V 電圧異常(上限)を検出した。	
BB +3.3v Alm02	3.3V 電圧異常(下限)を検出した。	
BB +5v Alm09	5V 電圧異常(上限)を検出した。	
BB +5v Alm02	5V 電圧異常(下限)を検出した。	
BB +1.2vs Alm09	1.2VS 電圧異常(上限)を検出した。	
BB +1.2vs Alm02	1.2VS 電圧異常(下限)を検出した。	
BB +1.25vs Alm09	1.25VS 電圧異常(上限)を検出した。	
BB +1.25vs Alm02	1.25VS 電圧異常(下限)を検出した。	
BB +1.5vs Alm09	1.5VS 電圧異常(上限)を検出した。	
BB +1.5vs Alm02	1.5VS 電圧異常(下限)を検出した。	
BB +3.3vs Alm09	3.3VS 電圧異常(上限)を検出した。	
BB +3.3vs Alm02	3.3VS 電圧異常(下限)を検出した。	
BB +5vs Alm09	5VS 電圧異常(上限)を検出した。	
BB +5vs Alm02	5VS 電圧異常(下限)を検出した。	
BB +12vs Alm09	12VS 電圧異常(上限)を検出した。	
BB +12vs Alm02	12VS 電圧異常(下限)を検出した。	

メッセージ	意 味	対処方法
SB +1.2v Alm09	SAS ユニットの 1.2V 電圧異常 (上限) を検出した。	<p>以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。</li> <li>* POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。</li> <li>* EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。</li> </ul> <p>OS からの制御、あるいは POWER スイッチを押すことにより、CPU ブレードの電源を OFF し、CPU ブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。</p> <p>1. CPU ユニットと SAS ユニットの接続する信号ケーブルの取り付け状態を確認する。 2. SAS ユニット上の DIMM の取り付け状態を確認する。</p> <p>CPU ブレードを交換する。</p> <p>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p>
SB +1.2v Alm02	SAS ユニットの 1.2V 電圧異常 (下限) を検出した。	
SB +1.35v Alm09	SAS ユニットの 1.35V 電圧異常 (上限) を検出した。	
SB +1.35v Alm02	SAS ユニットの 1.35V 電圧異常 (下限) を検出した。	
SB +1.5v Alm09	SAS ユニットの 1.5V 電圧異常 (上限) を検出した。	
SB +1.5v Alm02	SAS ユニットの 1.5V 電圧異常 (下限) を検出した。	
SB +1.8v Alm09	SAS ユニットの 1.8V 電圧異常 (上限) を検出した。	
SB +1.8v Alm02	SAS ユニットの 1.8V 電圧異常 (下限) を検出した。	

● STATUSランプがアンバー色に点滅しているとき

メッセージ	意 味	対処方法
HDD 0 Fault	スロット 0 に取り付けられたハードディスクドライブの異常を検出した。	エラーが発生したハードディスクドライブの取り付け状態を確認する。  問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
HDD 1 Fault	スロット 1 に取り付けられたハードディスクドライブの異常を検出した。	
HDD 2 Fault	スロット 2 に取り付けられたハードディスクドライブの異常を検出した。	
HDD 3 Fault	スロット 3 に取り付けられたハードディスクドライブの異常を検出した。	
E-Keying Error	ブレード収納ユニット内において、CPU ブレード/メザニンカードとスイッチモジュールの実装位置関係の不正により、インターフェース信号の不整合が検出され、電源 ON に失敗した。	ブレード収納ユニットのユーザースガイドを参照し、正しい位置関係で実装されているかを確認する。  CPU ブレードを交換する。  問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
Location Error	ブレード収納ユニットへの CPU ブレードの実装位置不正、または FAN と CPU ブレードの実装位置関係の不正により、電源 ON に失敗した。	1. ブレード収納ユニットのユーザースガイドを参照し、正しい位置に COU ブレード が実装されているか確認する。 2. FAN と CPU ブレード との実装位置関係が正しいかを確認する。  CPU ブレードを交換する。  問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
Cooling Error	ブレード収納ユニットへの FAN 実装数量の不足、または FAN 異常により冷却能力が不足し、電源 ON に失敗した。	1. ブレード収納ユニットの FAN を確認する。 2. ブレード収納ユニットのユーザースガイドを参照し、正しい数量・位置の FAN が実装されているかを確認する。 3. FAN と CPU ブレード との実装位置関係が正しいことを確認する。 4. CPU ブレードのヒートシンクの取り付け状態を確認する。 5. 設置環境が動作保障温度を満たしていることを確認する。
AmbientTempAlm07	警告レベルの CPU ユニット内部の高温異常を検出した。	
AmbientTempAlm00	警告レベルの CPU ユニット内部の低温異常を検出した。	CPU ブレードを交換する。  問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
Proc1 Therm % 07	警告レベルの CPU#1 の高温異常を検出した。	1. ブレード収納ユニットの FAN を確認する。 2. ブレード収納ユニットのユーザースガイドを参照し、正しい数量・位置の FAN が実装されているかを確認する。 3. FAN と CPU ブレード との実装位置関係が正しいことを確認する。 4. CPU ブレードのヒートシンクの取り付け状態を確認する。 5. 設置環境が動作保障温度を満たしていることを確認する。
Proc2 Therm % 07	警告レベルの CPU#2 の高温異常を検出した。	
Proc3 Therm % 07	警告レベルの CPU#3 の高温異常を検出した。	1. エラーが発生した CPU の取り付け状態を確認する。 2. エラーが発生した CPU のヒートシンクの取り付け状態を確認する。 3. エラーが発生した CPU を交換する。
Proc4 Therm % 07	警告レベルの CPU#4 の高温異常を検出した。	CPU ブレードを交換する。  問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	意 味	対処方法
Battery Alm07	警告レベルのリチウムバッテリー電圧異常(上限)を検出した。	以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON する。 * OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。
Battery Alm00	警告レベルのリチウムバッテリー電圧異常(下限)を検出した。	OS からの制御、あるいは POWER スイッチを押すことにより、CPU ブレードの電源を OFF し、CPU ブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。  1. CPU ユニット上のリチウムバッテリーの取り付け状態を確認する。 2. CPU ユニット上のリチウムバッテリーを交換する。  問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
Proc1 VCCP Alm07	警告レベルのCPU#1 VCCP 電圧異常(上限)を検出した。	以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON する。 * OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。
Proc1 VCCP Alm00	警告レベルのCPU#1 VCCP 電圧異常(下限)を検出した。	OS からの制御、あるいは POWER スイッチを押すことにより、CPU ブレードの電源を OFF し、CPU ブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。
Proc2 VCCP Alm07	警告レベルのCPU#2 VCCP 電圧異常(上限)を検出した。	1. エラーが発生した CPU の取り付け状態を確認する。 2. エラーが発生した CPU のヒートシンクの取り付け状態を確認する。 3. エラーが発生した CPU を交換する。
Proc2 VCCP Alm00	警告レベルのCPU#2 VCCP 電圧異常(下限)を検出した。	CPU ブレードを交換する。
Proc3 VCCP Alm07	警告レベルのCPU#3 VCCP 電圧異常(上限)を検出した。	問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
Proc3 VCCP Alm00	警告レベルのCPU#3 VCCP 電圧異常(下限)を検出した。	
Proc4 VCCP Alm07	警告レベルのCPU#4 VCCP 電圧異常(上限)を検出した。	
Proc4 VCCP Alm00	警告レベルのCPU#4 VCCP 電圧異常(下限)を検出した。	



メッセージ	意 味	対処方法
FSB VTT Alm07	警告レベルのFSB VTT 電圧異常(上限)を検出した。	以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON する。 * OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。 * EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。
FSB VTT Alm00	警告レベルのFSB VTT 電圧異常(下限)を検出した。	
B1 FBD VTT Alm07	警告レベルのDIMM VTT 電圧異常(上限)を検出した。	
B1 FBD VTT Alm00	警告レベルのDIMM VTT 電圧異常(下限)を検出した。	
B2 FBD VTT Alm07	警告レベルのDIMM VTT 電圧異常(上限)を検出した。	OS からの制御、あるいは POWER スイッチを押すことにより、CPU ブレードの電源を OFF し、CPU ブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。
B2 FBD VTT Alm00	警告レベルのDIMM VTT 電圧異常(下限)を検出した。	
B1 FBD VCC Alm07	警告レベルのDIMM VCC 電圧異常(上限)を検出した。	
B1 FBD VCC Alm00	警告レベルのDIMM VCC 電圧異常(下限)を検出した。	
B2 FBD VCC Alm07	警告レベルのDIMM VCC 電圧異常(上限)を検出した。	CPU ブレードを交換する。
B2 FBD VCC Alm00	警告レベルのDIMM VCC 電圧異常(下限)を検出した。	
B1 FBD VDD Alm07	警告レベルのDIMM VDD 電圧異常(上限)を検出した。	
B1 FBD VDD Alm00	警告レベルのDIMM VDD 電圧異常(下限)を検出した。	
B2 FBD VDD Alm07	警告レベルのDIMM VDD 電圧異常(上限)を検出した。	問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
B2 FBD VDD Alm00	警告レベルのDIMM VDD 電圧異常(下限)を検出した。	
BB +1.5v Alm07	警告レベルの1.5V 電圧異常(上限)を検出した。	
BB +1.5v Alm00	警告レベルの1.5V 電圧異常(下限)を検出した。	
BB +3.3v Alm07	警告レベルの3.3V 電圧異常(上限)を検出した。	
BB +3.3v Alm00	警告レベルの3.3V 電圧異常(下限)を検出した。	
BB +5v Alm07	警告レベルの5V 電圧異常(上限)を検出した。	
BB +5v Alm00	警告レベルの5V 電圧異常(下限)を検出した。	
BB +1.2vs Alm07	警告レベルの1.2VS 電圧異常(上限)を検出した。	
BB +1.2vs Alm00	警告レベルの1.2VS 電圧異常(下限)を検出した。	
BB +1.25vs Alm07	警告レベルの1.25VS 電圧異常(上限)を検出した。	
BB +1.25vs Alm00	警告レベルの1.25VS 電圧異常(下限)を検出した。	
BB +1.5vs Alm07	警告レベルの1.5VS 電圧異常(上限)を検出した。	
BB +1.5vs Alm00	警告レベルの1.5VS 電圧異常(下限)を検出した。	
BB +3.3vs Alm07	警告レベルの3.3VS 電圧異常(上限)を検出した。	
BB +3.3vs Alm00	警告レベルの3.3VS 電圧異常(下限)を検出した。	
BB +5vs Alm07	警告レベルの5VS 電圧異常(上限)を検出した。	
BB +5vs Alm00	警告レベルの5VS 電圧異常(下限)を検出した。	
BB +12vs Alm07	警告レベルの12VS 電圧異常(上限)を検出した。	
BB +12vs Alm00	警告レベルの12VS 電圧異常(下限)を検出した。	

メッセージ	意 味	対処方法
SB +1.2v Alm07	警告レベルの SAS ユニットの 1.2V 電圧異常 (上限) を検出した。	<p>以下のいずれかの方法により、CPU ブレードの電源を一旦 OFF し、電源を ON する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* OS から電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。</li> <li>* POWER スイッチを押し、電源を OFF し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。</li> <li>* EXPRESSSCOPE エンジンの Web ブラウザ、または DianaScope Manager から制御する。</li> </ul> <p>OS からの制御、あるいは POWER スイッチを押すことにより、CPU ブレードの電源を OFF し、CPU ブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWER スイッチを押し、電源を ON する。</p> <p>1. CPU ユニットと SAS ユニットの接続する信号ケーブルの取り付け状態を確認する。 2. SAS ユニット上の DIMM の取り付け状態を確認する。</p> <p>CPU ブレードを交換する。</p> <p>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p>
SB +1.2v Alm00	警告レベルの SAS ユニットの 1.2V 電圧異常 (下限) を検出した。	
SB +1.35v Alm07	警告レベルの SAS ユニットの 1.35V 電圧異常 (上限) を検出した。	
SB +1.35v Alm00	警告レベルの SAS ユニットの 1.35V 電圧異常 (下限) を検出した。	
SB +1.5v Alm07	警告レベルの SAS ユニットの 1.5V 電圧異常 (上限) を検出した。	
SB +1.5v Alm00	警告レベルの SAS ユニットの 1.5V 電圧異常 (下限) を検出した。	
SB +1.8v Alm07	警告レベルの SAS ユニットの 1.8V 電圧異常 (上限) を検出した。	
SB +1.8v Alm00	警告レベルの SAS ユニットの 1.8V 電圧異常 (下限) を検出した。	

## トラブルシューティング

システムが思うように動作しない場合は修理に出す前に次のチェックリストの内容に従って本装置をチェックしてください。リストにある症状に当てはまる項目があるときは、その後の確認、処理に従ってください。

それでも正常に動作しない場合は、ディスプレイ装置の画面に表示されたメッセージを記録してから、保守サービス会社に連絡してください。

### ブレードサーバについて

#### **[?] 電源がONにならない**

- ☐ 電源がシステムに正しく供給されていますか？
  - 電源コードがブレード収納ユニットの電源規格に合ったコンセント（またはUPS）に接続されていることを確認してください。
  - ブレード収納ユニットに添付の電源コードを使用してください。また、電源コードの被覆が破れていたり、プラグ部分が折れていたりしていないことを確認してください。
  - 接続したコンセントのブレーカがONになっていることを確認してください。
  - UPSに接続している場合は、UPSの電源がONになっていること、およびUPSから電力が出力されていることを確認してください。詳しくはUPSに添付の説明書を参照してください。
  - CPUブレードが正しく取り付けられていることを確認してください。  
また、CPUブレードのBIOSセットアップユーティリティでUPSとの電源連動機能の設定ができます。  
<確認するメニュー：「Server」メニューにある「AC-LINK」>
- ☐ 必要な数の電源ユニットがブレード収納ユニットに搭載されていますか？
  - 必要な電源ユニット数についてはブレード収納ユニットに添付のユーザズガイドを参照してください。
- ☐ EMカードの初期化は完了していますか？
  - EMカードの初期化が完了していないと、電源ユニットからCPUブレードへの電源供給は行われません。
- ☐ ブレード収納ユニットのFANが、必要な数量・正しい位置に実装されていますか？
  - 必要な数量・実装位置については、ブレード収納ユニットのユーザズガイドを参照してください。
- ☐ ブレード収納ユニット内に、CPUブレード(含むメザニンカード)とスイッチモジュールが正しい位置関係で実装されていますか？
  - 正しい位置関係については、ブレード収納ユニットのユーザズガイドを参照してください。

- ☐ CPUブレードへの電源供給開始後、30秒以内に電源ON操作を行っていませんか？
  - CPUブレードへの電源供給開始後、BMC初期化を約30秒間行います。CPUブレードへの電源供給を確認後(CPUブレードのPOWERランプがアンバー色に点灯後)、30秒以上経過してから、POWERスイッチにて電源ONを行ってください。
- ☐ CPUブレードへの電源供給開始直後は、スロット番号の大きなCPUブレードほど、電源ONが遅くなります。
  - CPUブレードへの電源供給開始後、BMC初期化を約30秒間行います。この直後に、電源ONを行う場合、(スロット番号-1)\*2秒 の待機時間が挿入される為、スロット番号の大きなCPUブレードほど、電源ONが遅くなります。
- ☐ CPUブレードへの電源ON操作から電源がONするまで、時間がかかる場合があります。
  - CPUブレードの電源ON操作を行うとCPUブレードはEMカードと通信し、電源ONの許可を得てから、電源ONを行います。EMカードが他の処理でビジーの為に、通信に時間がかかる場合、電源ONが遅くなります。

**【?】 ネットワークを介したリモートパワーオンが機能しない (Wake On LANが機能しない)**

- ☐ 強制電源OFFをしていませんか？
  - 強制電源OFF (CPUブレードのPOWERスイッチを4秒以上押し続けてCPUブレードを強制的に電源OFFにする機能) の後は、Wake On LANは機能しません。いったんCPUブレードを起動した後、通常のシャットダウン処理を行ってください。
- ☐ Wake on LANをサポートしているLANポートですか？
  - Wake on LANはLAN1~3でのみ機能します。

**【?】 電源がOFFにならない**

- ☐ POWERスイッチ抑止機能を有効にしていますか？
  - いったんCPUブレードを再起動して、BIOSセットアップユーティリティを起動してください。  
<確認するメニュー: 「Security」 → 「Power Switch Inhibit」 >

**【?】 POSTが終わらない**

- ☐ メモリが正しく搭載されていますか？
  - DIMMが正しく搭載されていないと動作しません。
- ☐ 大容量のメモリを搭載していますか？
  - 搭載しているメモリサイズによってはメモリチェックで時間がかかる場合があります。しばらくお待ちください。

- ☐ CPUブレードの起動直後にキーボードやマウスを操作していませんか？
  - 起動直後にキーボードやマウスを操作すると、POSTは誤ってキーボードコントローラの異常を検出し、処理を停止してしまうことがあります。そのときはもう一度、起動し直してください。また、再起動直後は、BIOSの起動メッセージなどが表示されるまでキーボードやマウスを使って操作しないよう注意してください。
- ☐ CPUブレードで使用できるメモリ・PCIデバイスを搭載していますか？
  - 弊社が指定する機器以外は動作の保証はできません。

### **[?] 「System Configuration Data Read Error」が表示され、画面が停止する**

- ☐ POST中に以下の行為をしましたか？
  - CPUブレードのPOWERボタンを押し、CPUブレードを強制電源OFFした。
  - CPUブレードのRESETボタンを押し、ハードウェアリセットを行った。
  - CPUブレードをブレード収納ユニットから取り外した。
  - ブレード収納ユニットの電源コードを抜く。
- 保守サービス会社に連絡してください。

### **[?] CPUブレードに標準装備のLANのMACアドレスがわからない**

- CPUブレードのMP接続用コネクタ付近に貼られているラベルで確認できます。詳しくは111ページを参照してください。

### **[?] 内蔵デバイスや外付けデバイスにアクセスできない（または正しく動作しない）**

- ☐ ケーブルは正しく接続されていますか？
  - インタフェースケーブルや電源ケーブル（コード）が確実に接続されていることを確認してください。また接続順序が正しいかどうか確認してください。
- ☐ 電源ONの順番を間違っていないですか？
  - 外付けデバイスを接続している場合は、外付けデバイス、CPUブレードの順に電源をONにします。
- ☐ ドライバをインストールしていますか？
  - 接続したオプションのデバイスによっては専用のデバイスドライバが必要な場合があります。デバイスに添付の説明書を参照してドライバをインストールしてください。
- ☐ BIOSの設定を間違えていませんか？
  - PCIデバイスを接続している場合は、CPUブレードのBIOSセットアップユーティリティでPCIデバイスの割り込みやその他の詳細な設定をしてください。（PCIデバイスについては通常、特に設定を変更する必要はありませんが、ボードによっては特別な設定が必要なものもあります。詳しくはボードに添付の説明書を参照して正しく設定してください。）
  - <確認するメニュー：「Advanced」→「PCI Device」→「PCI IRQ xx」、  
「Advanced」→「PCI Configuration」→「PCI Slot 1 Option ROM」>

- シリアルポートやUSBポートに接続しているデバイスについては、I/Oポートアドレスや動作モードの設定が必要なものもあります。デバイスに添付の説明書を参照して正しく設定してください。

<確認するメニュー：「Advanced」→「Peripheral Configuration」、  
「Server」→「Console Redirection」>

### **【?】 キーボードやマウスが正しく機能しない**

- ☐ BIOSの設定を間違えていませんか？

- CPUブレードのBIOSセットアップユーティリティでキーボードの機能を変更したり、マウスを無効にしたりすることができます。BIOSセットアップユーティリティで設定を確認してください。

<確認するメニュー：「Advanced」→「Peripheral Configuration」、  
「Advanced」→「NumLock」>

- ☐ ドライバをインストールしていますか？

- 使用しているOSに添付の説明書を参照してキーボードやマウスのドライバがインストールされていることを確認してください（これらはOSのインストールの際に標準でインストールされます）。また、OSによってはキーボードやマウスの設定を変更できる場合があります。使用しているOSに添付の説明書を参照して正しく設定されているかどうか確認してください。

- ☐ Windows Server 2003やLinuxが起動していない状態で使用していますか？

- USBキーボードとUSBフロッピーディスクドライブを使用した以下の状態においては、USBフロッピーディスクドライブのアクセスランプが消灯しているとき（フロッピーディスクへアクセスしていないとき）にキー入力をしてください。

- サポートディスクを使ってインストールする時に<F6>、<S>、<Enter>キーを入力する場合
- ROM-DOSシステムディスクを起動し、コマンドを入力する場合

- ☐ SSU経由で106キーボードを接続していませんか？

- SSU経由で106キーボードを接続し、システムのインストールを行うと106キーボードが101キーボードとして認識され、システムに登録されることがあります。117ページを参照してアップデートを行ってください。

### **【?】 ハードディスクドライブにアクセスできない**

- ☐ 本装置で利用できるハードディスクドライブですか？

- NECが指定する機器以外は動作の保証はできません。

- ☐ ハードディスクドライブは正しく取り付けられていますか？

- ドライブキャリアをブレード収納ユニットにしっかりと押し込んでドライブキャリアのレバーで確実に固定してください。取り付けが不完全な状態では、内部のコネクタに接続されません。

**【?】 OSを起動できない**

- ☐ BIOSで正しく設定されていますか？
  - CPUブレードのBIOSセットアップユーティリティで起動デバイスの設定を確認してください。
  - ＜確認するメニュー：「Boot」＞
- ☐ フロッピーディスクをセットしていませんか？
  - フロッピーディスクを取り出して再起動してください。
- ☐ OSが破損していませんか？
  - 修復プロセスを使って修復を試してください（335ページ）。

**【?】 プロセッサ（CPU）を増設後、起動するたびにイベントログが表示される**

- オプションのCPUの中には異なるレビジョンのものが含まれている場合があります。異なるレビジョンのCPUを混在して取り付けした場合、Windowsではイベントビューアのシステムログに以下のようなログが表示されますが、動作には問題ありません。

**【?】 インストール中、テキストベースのセットアップ画面で、文字化けしたメッセージが表示され、インストールが続行できない**

- ☐ 複数のハードディスクドライブを接続したり、ディスクアレイコントローラ配下に複数のシステムドライブを作成してインストールを行っていませんか？
  - OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブをいったん取り外した状態でインストールを行ってください。
  - ディスクアレイコントローラ配下のディスクにインストールする場合は、システムドライブを複数作成せず、1つだけ作成してインストールを行ってください。複数のシステムドライブを作成する場合は、インストール完了後、ディスクアレイのコンフィグレーションユーティリティを使用して追加作成してください。

**【?】 フロッピーディスクを外付フロッピーディスクドライブ（USB接続）にセットしているのに、「フロッピーディスクの準備ができていません」というメッセージが表示される****【?】 ライトプロテクトをしていないフロッピーディスクを外付フロッピーディスクドライブ（USB接続）にセットしているのに、「フロッピーディスクが書き込み禁止状態です」というメッセージが表示される**

- ☐ 故障ではありません。
  - リトライしてください（何度かリトライが必要な場合もあります）。

**[?] 正しいDVD/CD-ROMを挿入したのに以下のメッセージが表示される**

DVD/CD-ROMが挿入されていないか、誤ったDVD/CD-ROMが挿入されています。  
正しいDVD/CD-ROMを挿入してください。

OK

- ☐ DVD/CD-ROMのデータ面が汚れていたり、傷ついていたいたりしていませんか？

→ 光ディスクドライブからDVD/CD-ROMを取り出し、よごれや傷などが無いことを確認してから、再度DVD/CD-ROMをセットし、[OK]をクリックしてください。

**[?] DVD/CD-ROMにアクセスできない**

- ☐ DVD/CD-ROMディスクの表裏を間違えてセットしていませんか？

→ トレイからDVD/CD-ROMディスクを取り出し、DVD/CD-ROMディスクのトップレーベルを上にして、セットし直してください。

- ☐ DVD/CD-ROMディスクに汚れやキズがありませんか？

→ DVD/CD-ROMディスクの表面に指紋などの汚れやキズがないことを確認してください。汚れがある場合は、DVD/CD-ROMディスクの表面をクリーニングしてください。それでも読み込みができない場合は、アクセスが可能な別のDVD/CD-ROMディスクに入れ替えて、再度、読み込みができるかどうか確認してください。

- ☐ DVD/CD-ROMディスクがクローズされた状態になっていますか？

→ セッションをクローズした状態にするかディスクを閉じた状態にして再度、読めるかどうか確認してください。

**[?] OSの動作が不安定**

- ☐ システムのアップデートを行いましたか？

→ OSをインストールした後にネットワークドライバをインストールすると動作が不安定になることがあります。57ページを参照してシステムをアップデートしてください。

**[?] 障害発生時、「自動的に再起動する」の設定で、設定どおりに動作しない**

→ 障害発生時に「自動的に再起動する」の設定にかかわらず、自動的に再起動する場合や再起動しない場合があります。再起動しない場合は、手動で再起動してください。

**[?] ブルー画面で電源OFFができない**

→ ブルー画面で電源をOFFにする時は、強制電源OFF(強制電源OFF: POWERスイッチを4秒間押し続ける)を行ってください。一度押しでは電源はOFFになりません。

**[?] ネットワーク上で認識されない**

- ☐ ケーブルを接続していますか？

→ ネットワークケーブルの接続状態を確認してください。また、使用するケーブルがネットワークインタフェースの規格に準拠したものであることを確認してください。

- ☐ BIOSの設定を間違えていませんか？

→ ExpressサーバのBIOSセットアップユーティリティで内蔵のLANコントローラを無効にすることができます。BIOSセットアップユーティリティで設定を確認してください。



<確認するメニュー>:「Advanced」→「PCI Configuration」→「Embedded NIC (Dual Gbit)」→「LAN #1 Option ROM Scan」、  
「LAN #2 Option ROM Scan」>

□ プロトコルやサービスのセットアップを済ませていますか？

→ 専用のネットワークドライバをインストールしてください。また、TCP/IPなどのプロトコルのセットアップや各種サービスが確実に設定されていることを確認してください。

□ 転送速度の設定を間違えていませんか？

→ CPUブレードに標準で装備されている内蔵のLANコントローラは、転送速度が1Gbpsか100Mbps、10Mbpsのいずれかのネットワークで使用することができます。この転送速度の切り替え、または設定はOS上から行えますが、「自動検出」という機能は使用せず、運用しようとしている転送速度に設定してください。また、接続しているHubと転送速度やデュプレックスモードが同じであることを確認してください。

ただし、Wake On LAN機能を使用する場合は、リンク速度とデュプレックスモードの設定を[自動検出(Auto)]に設定する必要があります。

### **【?】 Webブラウザからリモートマネージメント機能を利用する際のログイン名/パスワードを忘れてしまった**

→ ログイン名やパスワード設定を忘れてしまった場合には、以下の手順でパスワードを含む各設定を工場出荷時の状態に戻すことができます。



本体装置にバンドルされている管理ソフトDianaScopeを使用している場合は、DianaScopeにて設定した項目も本操作を行うとクリアされます。本操作を行う前に、DianaScopeの設定情報のバックアップを行ってください。

- (1) CPUブレードから「EXPRESSBUILDER」DVDを起動する。
- (2) 「Tool menu (Normal mode)」－「Japanese」を選択する。
- (3) 「System Management」を選択する。
- (4) 「BMC設定の初期化」を選択する。
- (5) CPUブレードの電源をOFFする。
- (6) CPUブレードをブレード収納ユニットから取り外す。
- (7) 30秒以上経過した後、CPUブレードを取り付ける。

### **【?】 Windows Server 2003の使用、以下のメッセージが表示されログインできなくなった**

Windows 製品のライセンス認証

続行する前にWindowsのライセンス認証の手続きを実行してください。  
手続きが完了するまでログオンすることはできません。  
今すぐ手続きを実行しますか？  
コンピュータをシャットダウンするには[キャンセル]をクリックしてください。

□ Windows製品のライセンス認証手続きを完了していますか？

- Windows Server 2003では、Windows製品のライセンス認証手続きを完了しないまま使用していると、上記のメッセージが表示されます。[はい]を選んでWindowsのライセンス認証の手続きを実行してください。

### **[?] Telnetサービスがインストールされていない**

- コンピュータ名を14文字以下にして、<Telnetサービスのインストール手順>に従ってTelnetサービスをインストールしてください。

<Telnetサービスのインストール手順>

- (1) スタートメニューから[ファイル名を指定して実行]をクリックする。
  - (2) [名前]ボックスに「tlntsvr /service」と入力し、[OK]をクリックする。
  - (3) スタートメニューから[コントロールパネル]-[管理ツール]-[サービス]を開き、サービスの一覧にTelnetサービスが登録されていることを確認する。
- \* Telnetサービスのインストール後は、コンピュータ名を15文字以上に設定しても問題ありません。

### **[?] Windows Server 2003 x64 Editionsのインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある**

ソース : LoadPerf  
種類 : エラー  
イベントID : 3009

説明 : サービス C:\WINDOWS¥syswow64¥ipsecprf.ini(C:\WINDOWS¥syswow64¥ipsecprf.ini) のパフォーマンスカウンタの文字列をインストールできませんでした。エラーコードはデータセクションの最初のDWORD です。

- システム運用上、問題ありません。

### **[?] Windows Server 2003 x64 Editionsのインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある**

ソース : DCOM  
種類 : エラー  
イベントID : 10016

説明 : コンピュータ既定権限の設定では、CLSID{555F3418-D99E-4E51-800A-6E89CFD8B1D7}をもつ COM サーバーアプリケーションに対するローカル アクティブ化アクセス許可をユーザーNT AUTHORITY¥LOCAL SERVICE SID (S-1-5-19) に与えることはできません。このセキュリティのアクセス許可は、コンポーネントサービス管理ツールを使って変更できます。

- システム運用上、問題ありません。

**【?】 Windows Server 2003 x64 Editionsのインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある**

ソース : WinMgmt  
種類 : 警告  
イベントID : 5603

説明 : プロバイダ Rsop Planning Mode Provider は WMI 名前空間 root¥RSOP に登録されましたが、HostingModel プロパティが指定されませんでした。このプロバイダは LocalSystem アカウントで実行されます。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。プロバイダのセキュリティの動作を確認し、プロバイダ登録のHostingModel プロパティを、必要な機能が実行可能な最小限の権限を持つアカウントに更新してください。

→ システム運用上、問題ありません。

**【?】 Windows Server 2003 x64 Editionsのインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある**

ソース : WinMgmt  
種類 : 警告  
イベントID : 63

説明 : プロバイダ HiPerfCooker\_v1 は LocalSystem アカウントを使うために WMI 名前空間 Root¥WMI に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。プロバイダ WMIProv は LocalSystem アカウントを使うために WMI 名前空間 Root¥WMI に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

→ システム運用上、問題ありません。

**【?】 Windows Server 2003 x64 Editionsのインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある**

ソース : Service Control Manager  
種類 : エラー  
イベントID : 7011

説明 : Dfs サービスからのトランザクション応答の待機中にタイムアウト(30000 ミリ秒)になりました。

→ 再起動後にこのイベントが登録されていない場合、問題ありません。

**【?】 Windows Server 2003 x64 Editions / Windows Server 2003 システム起動時に、システムイベントログに次のような内容のエラー、および警告が記録される場合がある**

イベントID : 11  
ソース : iANSMiniport  
種類 : 警告

説明:次のアダプタリンクは接続されていません。  
Intel(R)PRO/1000 ~

イベントID : 13  
ソース : iANSMiniport  
種類 : 警告

説明 : Intel(R)PRO/1000 ~ がチームで無効化されました。

イベントID : 16  
 ソース : iANSMiniport  
 種類 : 警告

説明 : [チーム名]、最後のアダプタはリンクを失いました。ネットワークの接続が失われました。

イベントID : 22  
 ソース : iANSMiniport  
 種類 : 警告

説明 : プライマリアダプタはプローブを検出しませんでした。  
 Intel(R)PRO/1000 ~原因でチームが分割されている可能性があります。

- ネットワークアダプタでチームを設定した場合、システム起動時に上記のイベントログが記録されますが、LAN ドライバの動作上問題ありません。

### **[?] Windows Server 2003 x64 Edition / Windows Server 2003でUSB接続機器が使用できない**

- ☐ システムのアップデート前に「ホットフィックス：サポート技術情報（KB）921411」の適用を行いましたか？

USBルートハブに「！」マークが表示されるか確認してください。

<確認方法>

スタートメニューから［マイコンピュータ］を右クリックし、［管理］を選択して［コンピュータの管理］を起動します。左側のウィンドウの中から、［デバイスマネージャ］を選択してください。

- USBルートハブに「！」マークが表示されている場合は、「回復手順」を参照し適用してください。

「回復手順」は、各OS の インストレーションサプリメントガイドを参照してください。

### **[?] Windows Server 2003 x64 Edition / Windows Server 2003で システムのアップデートを適用すると、再起動後に“pci.sysが存在しません..”という旨のメッセージが表示されシステムを起動できない**

- ☐ システムのアップデートでChipSetドライバを適用中にUSBデバイス関係のドライバが削除される場合があります。

次の手順にしたがって作業を進めてください。

- (1) 回復コンソールを起動する。
- (2) 「<システムドライブ>%system32¥dllcache¥pci.sys」を「<システムドライブ>%system32¥drivers」下にコピーする。
- (3) 回復コンソールを終了し、OSを再起動する。
- (4) 「回復手順」を参照し「ホットフィックス：サポート技術情報（KB）921411」および「システムのアップデート」を適用する。

「回復手順」は、各OS の インストレーションサプリメントガイドを参照してください。

### **[?] Windows Server 2003 R2をインストール中、Windows Server 2003 R2 DISC 2をインストールする前にサービスパックを適用した**

- Windows Server 2003 R2をインストール後、「システムのアップデート」にてサービスパックを再適用してください。

**【?】 Windows Server 2003 R2の運用中、以下のようなイベントログが登録される場合がある**

ソース : IPMIDRV  
 種類 : エラー  
 イベントID : 1001

説明 : IPMIデバイス ドライバは、IPMI BMCデバイスがシステムでサポートされているかどうか判断しようとしていました。このドライバは、SMBIOSのType38レコードを検索できることでIPMI BMCを検出しようとしていましたが、レコードが見つからないか、レコードにデバイスドライバのバージョンとの互換性がありませんでした。SMBIOSのType38レコードが見つまっている場合は、イベントのDump Date フィールドにこのレコードがバイナリ表示されます。

- Windows Server 2003 R2において提供されている「ハードウェアの管理」を利用している場合、上記のイベントログが登録されます。  
 詳細な内容については、下記の「Windows Server 2003 R2で提供される「ハードウェアの管理」利用の手引き」を参照してください。

[http://support.express.nec.co.jp/care/techinfo/w2k3r2\\_wm.pdf](http://support.express.nec.co.jp/care/techinfo/w2k3r2_wm.pdf)

**【?】 /3GBスイッチ使用時、OSが起動しない**

/3GBスイッチ使用時、OSが起動しなくなる場合があります。

その場合は以下のURLを参照し、/uservaスイッチを使用してユーザーモードの領域を適切な値に調整してください。

<http://support.microsoft.com/kb/316739/ja>

**【?】 Windows Server 2008 のインストールを行うと、以下のようなシステムイベントログが登録される場合がある**

イベントID : 134  
 ソース : Microsoft-Windows-Time-Service  
 種類 : 警告

説明 : 'time.windows.com,0x9' での DNS 解決エラーのため、NtpClient でタイム ソースとして使う手動ピアを設定できませんでした。15分後に再試行し、それ以降は再試行間隔を2倍にします。

エラー :Hote inconnu. (0x80072AF9)

イベントID : 263  
 ソース : PlugPlayManager  
 種類 : 警告

説明 : サービス 'ShellHWDetection' は停止する前に、デバイス イベント通知の登録解除を行っていない可能性があります。

イベントID : 7000  
 ソース : Service Control Manager  
 種類 : エラー

説明 : Parallel port driver サービスを、次のエラーが原因で開始できませんでした: '指定されたサービスは無効であるか、または有効なデバイスが関連付けられていないため、開始できません。'

イベントID : 15016  
ソース : Microsoft-Windows-HttpEvent  
種類 : エラー

説明 : サーバー側認証用のセキュリティ パッケージ Kerberos を初期化できません。データ フィールドにはエラー番号が格納されています。

→ システム運用上、問題ありません。

### **[?] Windows Server 2008 のインストールを行うと、以下のようなアプリケーションイベントログが登録される場合がある**

イベントID : 63  
ソース : Microsoft-Windows-WMI  
種類 : 警告

説明 : プロバイダ Ncs2 は LocalSystem アカウントを使うためにWindows Management Instrumentation 名前空間 Root¥IntelNCS2 に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

プロバイダ IntelEthernetDiag は LocalSystem アカウントを使うためにWindows Management Instrumentation 名前空間 Root¥CIMv2 に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

プロバイダ WmiPerfClass は LocalSystem アカウントを使うためにWindows Management Instrumentation 名前空間 root¥cimv2 に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

→ システム運用上、問題ありません。

### **[?] Windows Server 2008 64-bit (x64) Edition / Windows Server 2008 32-bit (x86) Edition システム起動時に、システムイベントログに次のような内容のエラー、および警告が記録される場合がある**

イベントID : 11  
ソース : iANSMiniport  
種類 : 警告

説明:次のアダプタリンクは接続されていません。  
Intel(R)PRO/1000 ~

イベントID : 13  
ソース : iANSMiniport  
種類 : 警告

説明 : Intel(R)PRO/1000 ~ がチームで無効化されました。

イベントID : 16  
ソース : iANSMiniport  
種類 : 警告

説明 : [チーム名]、最後のアダプタはリンクを失いました。ネットワークの接続が失われました。

イベントID : 22  
ソース : iANSMiniport  
種類 : 警告

説明：プライマリアダプタはプローブを検出ませんでした。

Intel(R)PRO/1000 ～原因でチームが分割されている可能性があります。

- ネットワークアダプタでチームを設定した場合、システム起動時に上記のイベントログが記録されますが、LAN ドライバの動作上問題ありません。

### **【?】 Windows Server 2008 のインストールを行うと、次のイベントがシステムイベントログに記録される場合がある**

イベントID :10

ソース :VDS 動的なプロバイダ

説明: ドライバからの通知を格納するが、プロバイダに失敗しました。仮想ディスク サービスを再起動する必要があります。hr = 80042505

- 詳細については次のMicrosoft 社のWeb サイトを参照ください。  
<http://support.microsoft.com/kb/948275/ja>

### **【?】 Windows Server 2008 のインストールを行うと、次のイベントがシステムイベントログに記録される場合がある**

イベントID :1021

ソース :Microsoft-Windows-Security-Licensing-SLC

種類 : 警告

説明: SLUINotify サービスを開始できませんでした。hr=0x80070424

- ライセンス認証画面より、ライセンス認証を行ってください。ライセンス認証の手続きについては、「Windows Server 2008インストールサブプリメントガイド」を参照ください。

イベントID :1534

ソース :Microsoft-Windows-User Profiles Service

種類 : 警告

説明: コンポーネント {56EA1054-1959-467f-BE3B-A2A787C4B6EA} のイベント Create のプロファイル通知は失敗しました。エラー コードは -2147023591 です。

- ログオン時一度登録される場合がありますが、システム運用上問題ありません。

### **【?】 N8403-018 をご使用の場合、デバイスマネージャでのFibreChannel コントローラのコントローラ名がコントローラごとに異なって表示される場合がある**

- N8403-018 をご使用の場合、デバイスマネージャでのFibreChannel コントローラのコントローラ名がコントローラごとに異なって表示される場合がありますが、動作上、問題はありません。

また、ドライバを格納している（差分モジュールをコピーしたCD-R など）フォルダバスの以下のファイルを実行し再起動することで正しいコントローラ名が表示されます。

[Windows Server 2008 64-bit(x64) Edition の場合]

<ドライブレター>:¥winnt¥oemfd¥ws2008x64¥fd1¥elxstor¥friendlyname.exe

[Windows Server 2008 32-bit(x86) Edition の場合]

<ドライブレター>:¥winnt¥oemfd¥ws2008¥fd1¥elxstor¥frendlyname.exe

**[?] システム時刻がずれる**

- NTP (Network Time Protocol) サーバなど時刻を調整するサーバを利用しない場合、実時刻に対してシステム時刻がずれることがあります。この場合は、NTP サーバを利用するか、Windows Time サービスを無効に設定してください。

**増設HDDブレード AD106aについて****[?] 増設HDD AD106aブレードを取り付けた場合、以下のようなPOSTエラーが発生した**

8414 Upper I/O Blade PCIE Link Failure

8415 Lower I/O Blade PCIE Link Failure

- ☐ 増設HDDブレード AD106aが正しく取り付けられていますか？

→ 増設HDDブレード AD106aの取り付け状態を確認してください。

- ☐ CPUブレードが正しく取り付けられていますか？

→ CPUブレードの取り付け状態を確認してください。

**[?] 増設HDDブレード AD106aに内蔵されているRAIDコントローラの拡張オプションROMが展開されない**

- ☐ 増設HDD AD106aブレードが正しく取り付けられていますか？

→ 増設HDDブレード AD106aの取り付け状態を確認してください。

- ☐ 増設HDDブレード AD106aに内蔵されているRAIDコントローラの拡張オプションBIOS展開を有効にしていますか？

→ 以下の方法で拡張オプションBIOS展開を有効にしてください。

- 増設HDDブレード AD106aを下位側に取り付けた場合、CPUブレードのシステムBIOSのセットアップユーティリティを起動し、

Advanced - PCI Configuration - Lower I/O Blade Option ROM Scan

を有効にしてください。

- 増設HDDブレード AD106aを上位側と下位側の両方に取り付けた場合、CPUブレードのシステムBIOSのセットアップユーティリティを起動し、

Advanced - PCI Configuration - Upper I/O Blade Option ROM Scan

Advanced - PCI Configuration - Lower I/O Blade Option ROM Scan

のどちらか1つを有効にしてください。両方を有効にしないでください。

**[?] 増設HDDブレード AD106aに内蔵されているLANコントローラやメザニン拡張スロットに取り付けたメザニンカードの拡張オプションBIOSが展開されない**

- 増設HDDブレード AD106aに内蔵されているLANコントローラやメザニン拡張スロットに取り付けたメザニンカードの拡張オプションBIOSは展開されません。

**[?] 増設HDDブレード AD106aに内蔵されているRAIDコントローラの拡張オプションBIOS展開を有効にした場合、以下のようなPOSTエラーが発生した**

Expansion ROM not initialized - PCI network controller on Motherboard

Expansion ROM not initialized - PCI network controller in slot xx

Expansion ROM not initialized - Mass Storage Controller in slot xx

Expansion ROM not initialized - PCI Serial Bus Controller in slot xx



- CPUブレードのシステムBIOSのセットアップユーティリティを起動し、ブート時に拡張オプションBIOSが不要なデバイス/コントローラの拡張オプションBIOS展開を無効にしてください。

例1) 以下のブートを実施する場合

オンボードRAIDコントローラ配下のディスクからのブート  
LAN Port 1からのPXEブート

Advanced - PCI Configuration の項目	パラメータ
Onboard SAS - Option ROM Scan	Enabled
Onboard NIC - LAN Port 1 Option ROM Scan	Enabled
Onboard NIC - LAN Port 2 Option ROM Scan	Disabled
Onboard NIC - LAN Port 3 Option ROM Scan	Disabled
Onboard NIC - LAN Port 4 Option ROM Scan	Disabled
Mezzanine Slot 1 Option ROM Scan	Disabled
Mezzanine Slot 2 Option ROM Scan	Disabled
Mezzanine Slot 3 Option ROM Scan	Disabled
Mezzanine Slot 4 Option ROM Scan	Disabled

例2) 以下のブートを実施する場合

オンボードRAIDコントローラ配下のディスクからのブート  
LAN Port 3からのPXEブート

Advanced - PCI Configuration の項目	パラメータ
Onboard SAS - Option ROM Scan	Enabled
Onboard NIC - LAN Port 1 Option ROM Scan	Disabled
Onboard NIC - LAN Port 2 Option ROM Scan	Disabled
Onboard NIC - LAN Port 3 Option ROM Scan	Enabled
Onboard NIC - LAN Port 4 Option ROM Scan	Disabled
Mezzanine Slot 1 Option ROM Scan	Disabled
Mezzanine Slot 2 Option ROM Scan	Disabled
Mezzanine Slot 3 Option ROM Scan	Disabled
Mezzanine Slot 4 Option ROM Scan	Disabled

例3) 以下のブートを実施する場合

オンボードRAIDコントローラ配下のディスクからのブート  
LAN Port 1あるいはLAN Port 2からのPXEブート

Advanced - PCI Configuration の項目	パラメータ
Onboard SAS - Option ROM Scan	Enabled
Onboard NIC - LAN Port 1 Option ROM Scan	Enabled
Onboard NIC - LAN Port 2 Option ROM Scan	Enabled
Onboard NIC - LAN Port 3 Option ROM Scan	Disabled
Onboard NIC - LAN Port 4 Option ROM Scan	Disabled
Mezzanine Slot 1 Option ROM Scan	Disabled
Mezzanine Slot 2 Option ROM Scan	Disabled
Mezzanine Slot 3 Option ROM Scan	Disabled
Mezzanine Slot 4 Option ROM Scan	Disabled

**[?] CPUブレードのシステムBIOSのセットアップユーティリティに、「Upper I/O Blade Option ROM Scan」や「Lower I/O Blade Option ROM Scan」の項目が表示されない**

- ☐ 増設HDDブレード AD106aが正しく取り付けられていますか？  
→ 増設HDDブレード AD106aの取り付け状態を確認してください。
- ☐ CPUブレードが正しく取り付けられていますか？  
→ CPUブレードの取り付け状態を確認してください。

**[?] 以下のPOSTタスクの実行に時間がかかります**

POST タスクコード	タスク内容	フェーズ	上位 / 下位側共に増設HDDブレード AD106aを取り付けた場合にかかる時間
0049h	PCI リソース割り当て	画面出力前	約 45 秒
0093h	MP テーブルの IO 割り込みエントリー作成	画面出力後 (拡張 Option ROM 表示後)	約 20 秒

## 「EXPRESSBUILDER」DVDについて

「EXPRESSBUILDER」DVDから起動できない場合は、次の点について確認してください。

- ☐ POSTの実行中に「EXPRESSBUILDER」DVDをセットし、再起動しましたか？  
→ POSTを実行中に「EXPRESSBUILDER」DVDをセットし、再起動しないとエラーメッセージが表示されたり、OSが起動したりします。
- ☐ BIOSのセットアップを間違えていませんか？  
→ BIOSセットアップユーティリティでブートデバイスの起動順序を設定することができます。BIOSセットアップユーティリティで光ディスクドライブが最初に起動するよう順序を変更してください。  
<確認するメニュー：「Boot」>
- ☐ Boot selection画面で『Os installation\*\*\*\*default\*\*\*』を選択した場合に以下のようなメッセージが表示されます。  
メッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	原因
EXPRESSBUILDER は、このコンピュータを動作対象としていません。 正しいバージョンをセットして「OK」ボタンを押してください。  (「OK」ボタンを押すと再起動します)	EXPRESSBUILDER の対象マシンではありません。 対象マシンで実行してください。
マザーボード上のハードウェアに関する情報を取得できませんでした。 対象外の機種、またはマザーボードが故障している可能性があります。  (「OK」ボタンを押すと再起動します)	マザーボード交換時など、EXPRESSBUILDER が装置固有情報を見つけられない場合に表示されます。
マザーボード上のハードウェアに関する情報が不正です。 対象外の機種、またはマザーボードが故障している可能性があります。  (マザーボード交換直後にこのエラーが出たときは、「Maintenance Utility」を使ってハードウェアの情報を正しく設定してください)	

## シームレスセットアップについて

### <Windows>

#### **【?】 HDDの先頭に未使用領域がある**

- インストールしたOSはWindows Server 2003ですか？
  - Windows Server 2003 でシームレスセットアップを実行した場合、HDDの先頭8MBが未使用領域となる場合がありますが、システム運用上、問題ありません。

#### **【?】 ドメインに参加するように設定したのに、ワークグループでインストールされている**

- LANケーブルが接続されていなかった場合、ドメイン参加設定ではなく、ワークグループ設定でインストールされます。OS起動後に、ドメイン参加を行ってください。

#### **【?】 シームレスセットアップ中、外付けハードディスクドライブの中身が消去された**

- OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブを接続していませんか？
  - OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブを取り外し、シームレスセットアップを行ってください。

#### **【?】 ネットワークの接続名が『Local Area Connection』になっている**

- シームレスセットアップの仕様です。  
ネットワーク接続名を変更する場合は、シームレスセットアップ完了後に実施してください。

### <Linux>

#### **【?】 シームレスセットアップ・インストールキーが、どこに記載されているか見つからない**

- Linuxサービスセット同梱の「はじめにお読みください」に記載されています。

#### **【?】 [Red Hat Enterprise Linux 5 Server]、[Red Hat Enterprise Linux AS 4]のインストールディスク（[Red Hat Enterprise Linux 5.2 Server (x86) Install Disc 1~5]など）がLinuxサービスセットの中に見つからない**

- BTO(工場組み込み出荷)時には、インストールディスクがISOイメージとしてLinux Recoveryパーティションに格納されています。シームレスセットアップで「ハードディスクからのインストール」を選択し再インストールする場合は、格納されているISOイメージを使用するため、インストールディスクの作成の手間が省けます。  
インストールディスクの入手方法は、「Red Hat Enterprise Linux 5 Server インストールサプリメントガイド」または「Red Hat Enterprise Linux 4 インストールサプリメントガイド」を参照してください。  
「Linuxメディアキット」を購入されたお客様は、インストールディスクが同梱されていますので、そちらをご利用ください。

#### **【?】 BTO(工場組み込み出荷)時のハードディスクに不明なパーティション(タイプ vfat)が確保されている**

- LinuxをBTO(工場組み込み出荷)で購入された場合、Linuxの再インストール用にLinux Recovery パーティション(約5GB)が確保されています。  
Linux Recoveryパーティションには、再インストールに必要なインストールディスクのISOイメージやドライバ、アプリケーションなどが格納されています。

システム運用時にLinux Recoveryパーティションが必要ない場合、Linux Recovery

パーティションを削除することができます。再インストール時に必要になった場合には、「EXPRESSBUILDER」DVDからLinux Recoveryパーティションを作成することができます。なお、Linux Recoveryパーティションを作成するにはインストールディスクが必要です。

**[?] 既存のLinuxのパーティションを残したままシームレスセットアップできない**

- シームレスセットアップでは、再インストールを対象にしています。そのため、既存のLinuxパーティションを残したまま再インストールはできません。  
必要なデータをバックアップし、シームレスセットアップを行ってください。

**[?] BTO(工場組み込み出荷)時以外のパーティション構成でシームレスセットアップできない**

- シームレスセットアップでは、パーティションレイアウトとして「BTO（工場組み込み出荷）時パターン1〜3」および「手動で設定する」を選択することができます。シームレスセットアップ時にBTO(工場組み込み出荷)時以外のパーティション構成でインストールするには、STEP7（93ページの手順11を参照）の[パーティション・パッケージの設定]画面で「手動で設定する」を選択してください。その後、画面の指示に従い操作を行い、インストール開始後表示されるLinuxの標準インストーラのパーティション設定画面(テキストモード)でパーティションを設定してください。

**[?] Linux Recoveryパーティションをインストール時に削除できない**

- シームレスセットアップのSTEP6（92ページの手順10を参照）の[インストール方法の選択]画面で「CD/DVDからのインストール」を選択するか、マニュアルセットアップでインストールしてください。

**[?] シームレスセットアップ時にインストールされるパッケージを知りたい**

- シームレスセットアップでは、BTO(工場組み込み出荷)時と同じパッケージ構成でインストールされます。  
BTO(工場組み込み出荷)時にインストールされるパッケージは、「Red Hat Enterprise Linux 5 Server インストレーションサプリメントガイド」または「Red Hat Enterprise Linux 4 インストレーションサプリメントガイド」を参照してください。  
またはパッケージの選択画面（93ページの手順11を参照）で「こちら」をクリックすると、BTO（工場組み込み出荷）時のパッケージ一覧が表示されます。

**[?] シームレスセットアップで[実行する]ボタンをクリックし、再起動画面で再起動するとLinux標準インストーラが起動し言語やキーボード設定を求められる**

- インストールディスクの1枚目を挿入したまま再起動したためです。シームレスセットアップの[実行する]ボタンをクリック後、最初の再起動時にはすべてのCD/DVDおよびフロッピーディスクを取り出して再起動してください。  
すべてのCD/DVDおよびフロッピーディスクを取り出して再起動しても、言語やキーボードの設定画面になる場合は、「セットアップ前の確認事項について」（85ページ）を参照し、シームレスセットアップが可能なハードウェア構成になっているかを確認してください。

**[?] シームレスセットアップで[実行する]ボタンをクリックし、再起動画面で再起動するとLinux標準インストーラが起動しない**

- 「EXPRESSBUILDER」DVDまたはフロッピーディスクが挿入されたまま再起動された可能性があります。シームレスセットアップの[実行する]ボタンをクリック後、最初の再起動時にはすべてのCD/DVDおよびフロッピーディスクを取り出して再起動してください。  
すべてのCD/DVDおよびフロッピーディスクを取り出して再起動しても、Linux標準インストーラが起動しない場合、オプションボードなどにハードディスクが接続さ

れ、ブートするハードディスクがBTO(工場組み込み出荷)時と異なる可能性があります。

BTO(工場組み込み出荷)時と同じ構成に戻し、再度シームレスセットアップを行ってください。

**【?】 シームレスセットアップでインストール時に、「Do you have a driver disk?」というメッセージが表示される**

- Linux用ドライバディスクを要求するメッセージです。事前にLinux用ドライバディスクを用意し、上記メッセージが表示された場合Linux用ドライバディスクを挿入しインストールを継続してください。  
「EXPRESSBUILDER」のトップメニューの「Linux用ドライバディスクを作成する」で作成するか、シームレスセットアップ中にLinux用ドライバディスクを作成することができます。または、「オートランで起動するメニュー」(235ページ)から作成することもできます。

**【?】 シームレスセットアップでインストール時に、「CDが見つかりません。」または「CD Not Found」というメッセージが表示される**

- インストールディスクを要求するメッセージです。  
インストールディスクの1枚目を挿入し、インストールを継続してください。

**【?】 シームレスセットアップでインストール後、次のような現象が発生する。1.X Window Systemが起動しない (startxコマンドが異常終了する)。2.コンソール端末に表示されるメッセージが文字化けする。3.X Window Systemは起動するが、キーボード設定が英字配列になっている。4.ネットワーク設定が行われていない**

- Linuxサービスセットに添付される「初期設定および関連情報について」を参照し、Linuxの初期導入設定を行ってください。

**【?】 オプションのLANボードを増設して「Red Hat Enterprise Linux 5 Server」、「Red Hat Enterprise Linux AS 4」をインストールすると、本体装置のLANポートにケーブルを接続しeth0、eth1、eth2、eth3を有効にしてもネットワーク接続ができない**

- オプションのLANボードを増設した場合、本体装置のLANボードに付与されるデバイス名が変更される場合があります。本体装置のLANボードのデバイス名が変更されている場合、ケーブルの差し替え、またはネットワークの設定変更を行い、ネットワーク接続できることを確認してください。

**【?】 フロッピーディスクドライブの指定で“sda”を選択したが、エラーメッセージが表示される**

- OSが認識するフロッピーディスクドライブのデバイス名が“sda”と異なっている可能性があります。他のデバイス(通常はリストの一番最後のデバイス名)を選択してください。

**【?】 インストール完了画面で[再起動]を押した時、「install exited abnormally --received signal 11」というメッセージが表示され、システムが再起動できない**

- システム構成によって、本エラーが発生する場合があります。OSのインストールは正常に完了していますので、リセット(<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押す)または電源をOFF/ONし、本体装置を再起動してください。

## オートランで起動するメニューについて

### **[?] オンラインドキュメントが読めない**

- ☐ Adobe Readerが正しくインストールされていますか？
  - オンラインドキュメントの文書の一部は、PDFファイル形式で提供されています。あらかじめAdobe Readerをインストールしておいてください。
- ☐ 使用しているOSは、Windows XP SP2ですか？
  - SP2にてオンラインドキュメントを表示しようとする、ブラウザ上に以下のような情報バーが表示されることがあります。

「セキュリティ保護のため、コンピュータにアクセスできるアクティブコンテンツは表示されないよう、Internet Explorerで制限されています。オプションを表示するには、ここをクリックしてください...」

この場合、以下の手順にてドキュメントを表示させてください。

    - (1) 情報バーをクリックする。

ショートカットメニューが現れます。
    - (2) ショートカットメニューから、「ブロックされているコンテンツを許可」を選択する。

「セキュリティの警告」ダイアログボックスが表示されます。
    - (3) ダイアログボックスにて「はい」を選択。

### **[?] メニューが表示されない**

- ☐ ご使用のOSは、Windows Vistaですか？
  - Windows Vistaで実行した場合、以下のようなメッセージが表示されることがあります。

「認識できないプログラムがこのコンピュータへアクセスを要求しています。  
dispatcher.exe」

この場合、「許可する」をクリックして先へ進んでください。
- ☐ ご使用のOSは、Windows XP以降、またはWindows 2003以降ですか？
  - 本プログラムは、Windows XP以降またはWindows 2003以降のオペレーティングシステムにて動作させてください。
  - Windows 2000の場合は、あらかじめIE6.0をインストールしてください。
  - Windows 2008 Server Core 環境には対応していません。
- ☐ <Shift>キーを押していませんか？
  - <Shift>キーを押しながらディスクをセットすると、オートラン機能がキャンセルされます。
- ☐ OSの状態は問題ありませんか？
  - レジストリ設定やディスクをセットするタイミングによっては、メニューが起動しない場合があります。そのような場合は、エクスプローラから「マイコンピュータ」を選択し、セットしたDVDドライブのアイコンをダブルクリックしてください。

**【?】 メニュー項目がグレイアウトされている**

- ☐ ご使用の環境は正しいですか？
  - 実行するソフトウェアによっては、管理者権限が必要だったり、本装置上で動作することが必要だったりします。適切な環境にて実行するようにしてください。

**【?】 メニューが英語で表示される**

- ☐ ご使用の環境は正しいですか？
  - オペレーティングシステムが英語バージョンの場合、メニューは英語で表示されます。日本語メニューを起動させたい場合は、日本語バージョンのオペレーティングシステムにて動作させてください。

## RAIDシステム、RAIDコントローラについて

RAIDシステムを構成している本装置がうまく動作しない時や、管理ユーティリティが正しく機能しないときは次の点について確認してください。また、該当する項目があったときは、処理方法に従った操作をしてください。

**【?】 OSをインストールできない**

- ☐ RAIDコントローラのコンフィグレーションを行いましたか？
  - RAID コンフィグレーションユーティリティ (WebBIOS)を使って正しくコンフィグレーションしてください。

**【?】 OSを起動できない**

- ☐ RAIDコントローラのBIOS設定が変更されていませんか？
  - RAID コンフィグレーションユーティリティ (WebBIOS)を使って正しく設定してください。
- ☐ POSTで、RAIDコントローラを認識していますか？
  - RAIDコントローラが正しく接続されていることを認識してから電源をONにしてください。
  - 正しく接続していても認識されない場合は、RAIDコントローラの故障が考えられます。契約されている保守サービス会社または購入された販売店へ連絡してください。

**【?】 リビルドができない**

- ☐ リビルドするハードディスクドライブの容量が少なくありませんか？
  - 故障したハードディスクドライブと同じ容量のディスクを使用してください。
- ☐ 論理ドライブが、RAID0ではありませんか？
  - RAID0には冗長性がないため、リビルドはできません。FAILになったハードディスクドライブを交換して、再度コンフィグレーション情報を作成し、イニシャライズを行ってからバックアップデータを使用して復旧してください。

**【?】 オートリビルドができない**

- ☐ ハードディスクドライブを交換（ホットスワップ）するときに十分な時間を空けましたか？



→ オートリビルドを機能させるためには、ハードディスクドライブを取り出してから取り付けるまでの間に60秒以上の時間を空けてください。

☐ 設定を間違えていませんか？

→ LSI Software RAID Configuration Utilityを使って、オートリビルドの設定を確認してください。TOPメニュー→「Objects」→「Adapter」→「Auto Rebuild」

\* WebBIOSにはオートリビルドの設定はありません。

### **[?] ハードディスクドライブがFailになった**

→ 契約されている保守サービス会社または購入された販売店へ連絡してください。

### **[?] 整合性チェックが実行できない**

☐ 論理ドライブが「Degraded」になっていませんか？

→ 故障しているハードディスクドライブを交換し、リビルドを実施してください。

☐ 論理ドライブのRAIDレベルがRAID0ではありませんか？

→ RAID0は冗長性がないため整合性チェックができません。

## N8403-018 Fibre Channelコントローラについて

### **[?] デバイスマネージャでのコントローラ名がコントローラごとに異なって表示される場合がある**

→ Windows Server 2008でデバイスマネージャでのコントローラ名がコントローラごとに異なって表示される場合がありますが、動作上、問題はありません。また、EXPRESSBUILDERに格納されている、以下のファイルを実行し再起動することで正しいコントローラ名が表示されます。

[Windows Server 2008 64-bit(x64) Edition の場合]

<光ディスクのドライブレター>:

%002%win%winnt%oemfd%ws2008x64%fd1%elxstor%friendlyname.exe

[Windows Server 2008 32-bit(x86) Edition の場合]

<光ディスクのドライブレター>:

%002%win%winnt%oemfd%ws2008%fd1%elxstor%friendtynname.exe

## ExpressPicnicについて

### **[?] ExpressPicnicが起動できない**

→ ExpressPicnic は、「Microsoft® HTML Application host」で実行する必要があります。起動しない場合は、下記の手順で「Microsoft® HTML Application host」の関連付けを行ってください。

(1) Windowsのスタートメニューから[ファイル名を指定して実行]を選択する。

(2) %windir%\system32\mshta.exe /register と入力する。



## ESMPROについて

### ESMPRO/ServerAgentについて (Windows版)

- 添付の「EXPRESSBUILDER」DVD内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent (Windows版) インストレーションガイド」でトラブルの回避方法やその他の補足説明が記載されています。参照してください。

### ESMPRO/ServerAgent (Linux版) について

- 添付のEXPRESSBUILDER DVD内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent (Linux版) ユーザーズガイド」、「ESMPRO/ServerAgent (Linux版) インストレーションガイド」で詳しい使い方やその他の補足説明が記載されています。参照してください。

### ESMPRO/ServerManagerについて

- 添付の「EXPRESSBUILDER」DVD内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManagerインストレーションガイド」でトラブルの回避方法やその他の補足説明が記載されています。参照してください。

## その他のバンドルソフトウェアについて

「EXPRESSBUILDER」DVDにバンドルされている管理ソフトウェアに関する説明は、htmlファイルまたはPDFファイルとして「EXPRESSBUILDER」DVDの中に格納されています。PDFファイルは、Adobe Acrobat Reader Version 4.0以降で閲覧することができます。

Windows 95以降、およびWindows NT 4.0以降で動作しているコンピュータの光ディスクドライブに「EXPRESSBUILDER」DVDをセットすると「Windows Autorun Menu」が表示されます。Windows Autorun Menuから各種管理ソフトウェアに関するオンラインドキュメントを読むことができます。

## 障害情報の採取

万一障害が起きた場合、次の方法でさまざまな障害発生時の情報を採取することができます。



- 以降で説明する障害情報の採取については、保守サービス会社の保守員から情報採取の依頼があったときのみ採取してください。
- 障害発生後に再起動されたとき、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのままシステムを起動してください。途中でリセットし、もう一度起動すると、障害情報が正しく採取できません。

## イベントログの採取

装置に起きたさまざまな事象（イベント）のログを採取します。



STOPエラーやシステムエラー、ストールが起きている場合はいったん再起動してから作業を始めます。



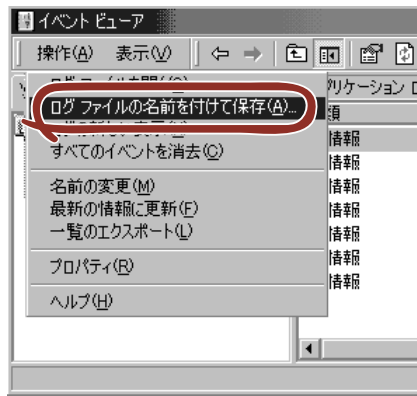
オプションのCPUの中には異なるレビジョン（ステッピング）のものが含まれている場合があります。異なるレビジョンのCPUを混在して取り付けた場合、Windowsではイベントビューアのシステムログに以下のようなログが表示されますが、動作には問題ありません。



1. コントロールパネルから「管理ツール」－「イベントビューア」をクリックする。
2. 採取するログの種類を選択する。

[アプリケーション ログ] には起動していたアプリケーションに関連するイベントが記録されています。[セキュリティ ログ] にはセキュリティに関連するイベントが記録されています。[システム ログ] にはWindowsのシステム構成要素で発生したイベントが記録されています。

3. [操作] メニューの [ログファイルの名前を付けて保存] コマンドをクリックする。



4. [ファイル名] ボックスに保存するアーカイブログファイルの名前を入力する。
5. [ファイルの種類] リストボックスで保存するログファイルの形式を選択し、[OK] をクリックする。

詳細についてはWindowsのオンラインヘルプを参照してください。

## 構成情報の採取

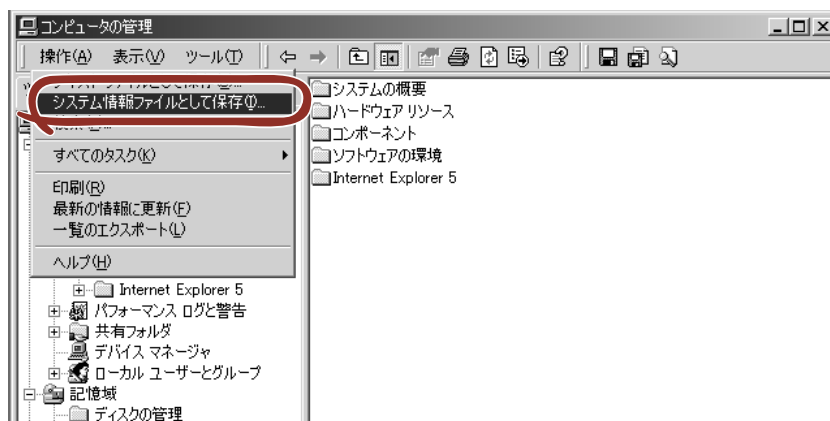
ブレードサーバのハードウェア構成や内部設定情報などを採取します。  
情報の採取には「診断プログラム」を使用します。



STOPエラーやシステムエラー、ストールが起きている場合はいったん再起動してから作業を始めます。

1. スタートメニューの [設定] をポイントし、[コントロールパネル] をクリックする。  
[コントロールパネル] ダイアログボックスが表示されます。
2. [管理ツール] アイコンをダブルクリックし、[コンピュータの管理] アイコンをダブルクリックする。  
[コンピュータの管理] ダイアログボックスが表示されます。
3. [システムツール] - [システム情報] をクリックする。

4. [操作] メニューの [システム情報ファイルとして保存] コマンドをクリックする。



5. [ファイル名] ボックスに保存するファイルの名前を入力する。  
6. [保存] をクリックする。

## ユーザーモードプロセスダンプ（ワトソン博士の診断情報）の採取

アプリケーションエラーに関連する診断情報を採取します。詳しくは「導入編」の「ユーザーモードプロセスダンプの取得方法」（51ページ）を参照してください。

## メモリダンプの採取

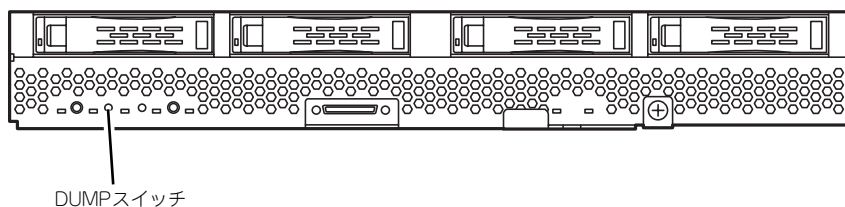
障害が起きたときのメモリの内容をダンプし、採取します。ダンプをDATに保存した場合は、ラベルに「NTBackup」で保存したか「ARCServe」で保存したかを記載しておいてください。診断情報の保存先は任意で設定できます。詳しくは「メモリダンプ（デバッグ情報）の設定」（Windows Server 2003 x64 Editions、Windows Server 2003は41ページ）を参照してください。



- 保守サービス会社の保守員と相談した上で採取してください。正常に動作しているときに操作するとシステムの運用に支障をきたすおそれがあります。
- 障害の発生後に再起動したときに仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。途中でリセットして起動し直すと、データを正しくダンプできない場合があります。

障害が発生し、メモリダンプを採取したいときにDUMPスイッチを押してください。スイッチを押すときには金属製のピン（太めのゼムクリップを引き伸ばして代用可）をスイッチ穴に差し込んでスイッチを押します。

スイッチを押すと、メモリダンプは設定されている保存先に保存されます（CPUがストールした場合などではメモリダンプを採取できない場合があります）。



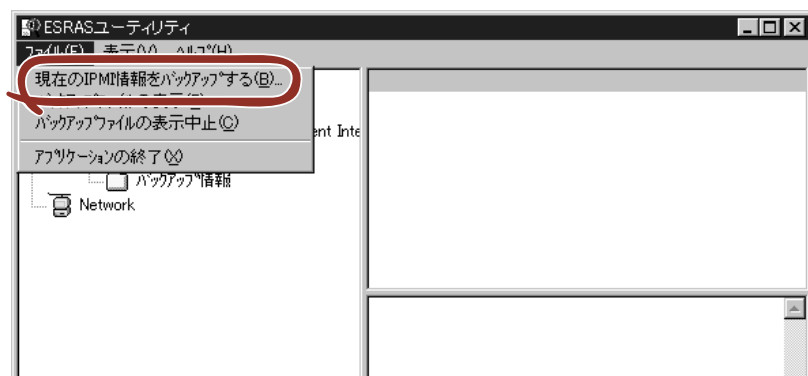
## IPMI情報のバックアップ

IPMI情報を採取します。情報を採取するためには、ESMPRO/ServerAgentがインストールされていなければなりません。

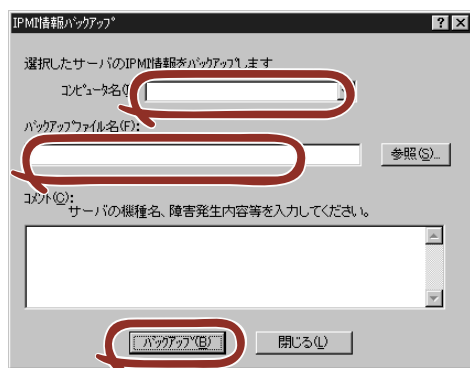
1. スタートメニューから【プログラム】 - 【ESMPRO ServerAgent】 - 【ESRASユーティリティ】を選ぶ。  
【ESRASユーティリティ】ウィンドウが表示されます。
2. ツリービューより【最新情報】を選択して、ローカルコンピュータの情報を取得する。  
データが表示されれば取得ができたことになります。



3. 【ファイル】メニューから【現在のIPMI情報をバックアップする】をクリックする。



4. バックアップ対象のコンピュータ名を確認する。
5. 退避するバックアップファイル名と保存する場所を指定して【バックアップ】をクリックする。



## システムの修復

### Windows Server 2008の場合

何らかの原因でシステムを起動できなくなった場合は、回復コンソールを使用してシステムの修復を行います。ただし、この方法は詳しい知識のあるユーザーや管理者以外にはお勧めできません。詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

### Windows Server 2003 x64 Editions, Windows Server 2003の場合

何らかの原因でシステムを起動できなくなった場合は、回復コンソールを使用してシステムの修復を行います。ただし、この方法は詳しい知識のあるユーザーや管理者以外にはお勧めできません。詳細については、オンラインヘルプを参照してください。



- システムの修復後、必ずシステムをアップデートしてください。また、システムのアップデートに加え、各種ドライバをアップデートしてください。詳しくは「EXPRESSBUILDER」DVDに格納されている各OSのインストレーションサブリメントガイドの「システムのアップデート」、「ドライバのインストールと詳細設定」を参照してください。
- CPUブレードにキーボード・ディスプレイ装置・光ディスクドライブ・フロッピーディスクドライブが接続されていない場合は、必ず正しい構成で接続してください。
- ハードディスクドライブが認識できない場合は、システムの修復はできません。
- USBフロッピーディスクドライブのアクセスランプが消灯しているとき（フロッピーディスクへのアクセスがないとき）にキー入力をしてください。

# 保守ツール

保守ツールは、本製品の予防保守、障害解析、設定等を行うためのツールです。

## 保守ツールの起動方法

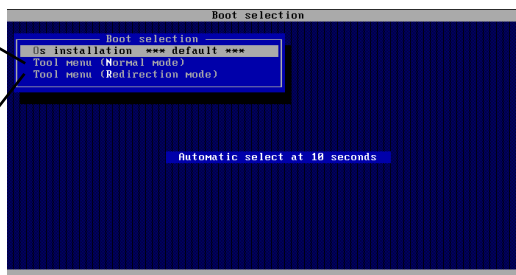
次の手順に従って保守ツールを起動します。

1. 周辺機器、Expressサーバの順に電源をONにします。
2. Expressサーバの光ディスクドライブへ「EXPRESSBUILDER」DVDをセットします。
3. DVDをセットしたら、リセットする（<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す）か、電源をOFF/ONしてExpressサーバを再起動します。

光ディスクドライブから以下のようなメニューが起動します。

Tool menu (Normal mode):  
ローカルコンソールでツールを使用  
する場合に選択します。

Tool menu (Redirection mode):  
コンソールレスでツールを使用する場  
合に選択します。

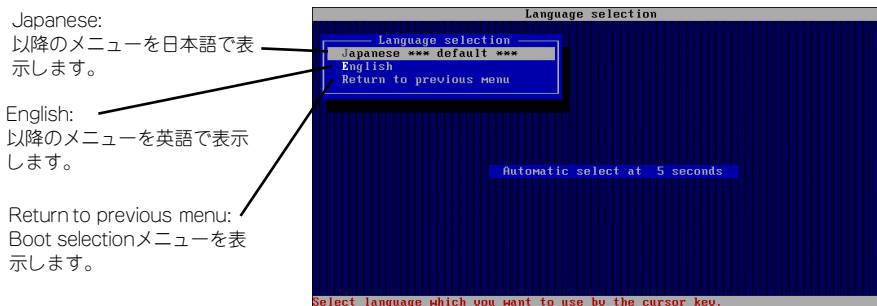


メニューの初期選択は「Os installation」となっています。  
Boot selectionメニュー表示後、10秒間操作が行われない場合は、「Os installation」が自動で起動します。



4. ローカルコンソールを使用する場合は「Tool menu (Normal mode)」を、コンソールレスで使用する場合は「Tool menu (Redirection mode)」を選択します。

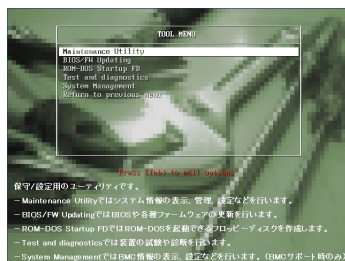
以下に示すLanguage selection メニューを表示します。



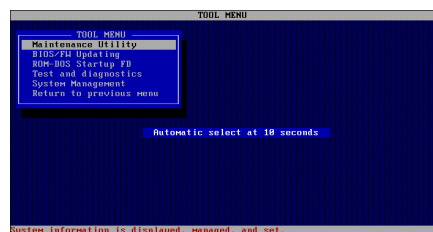
メニューの初期選択は「Japanese」となっています。  
Language selection メニュー表示後、5 秒間操作が行われない場合は、「Japanese」が自動で起動します。

5. 「Japanese」を選択します。

「Japanese」を選択すると次のツールメニューを表示します。



ローカルコンソールを使用した場合



コンソールレスの場合

6. 各ツールを選択し、起動します。

## 保守ツールの機能

保守ツールでは以下の機能を実行できます。

### ● Maintenance Utility

Maintenance Utilityではオフライン保守ユーティリティを起動します。オフライン保守ユーティリティは、本製品の予防保守、障害解析を行うためのユーティリティです。ESMPROが起動できないような障害が本製品に起きた場合は、オフライン保守ユーティリティを使って障害原因の確認ができます。



- オフライン保守ユーティリティは通常、保守員が使用するプログラムです。オフライン保守ユーティリティを起動するとメニュー中にヘルプ（機能や操作方法を示す説明）がありますが、無理な操作をせずにオフライン保守ユーティリティの操作を熟知している保守サービス会社に連絡して、保守員の指示に従って操作してください。

オフライン保守ユーティリティを起動すると、以下の機能を実行できます。

#### ー IPMI情報の表示

IPMI(Intelligent Platform Management Interface)におけるシステムイベントログ(SEL)、センサー装置情報(SDR)、保守交換部品情報(FRU)の表示やIPMI情報のバックアップをします。

本機能により、本製品で起こった障害や各種イベントを調査し、交換部品を特定することができます。

#### ー BIOSセットアップ情報の表示

BIOSの現在の設定値をテキストファイルへ出力します。

#### ー システム情報の表示

プロセッサ(CPU)やBIOSなどに関する情報を表示したり、テキストファイルへ出力したりします。

#### ー システム情報の管理

お客様の装置固有情報や設定のバックアップ（退避）をします。バックアップを行うことで、ボードの修理や交換の際に装置固有情報や設定を復旧できます。



システム情報のバックアップ方法については、60ページで説明しています。なお、リストア（復旧）は操作を熟知した保守員以外は行わないでください。

#### ー システムマネジメント機能

BMC(Baseboard Management Controller)による通報機能や管理PCからのリモート制御機能を使用するための設定を行います。

- **BIOS/FW Updating**

弊社Webサイトの以下ページで配布される各種BIOS/FW（ファームウェア）のアップデートを使用して、本装置のBIOS/FWをアップデートすることができます。

[PCサーバ サポート情報] <http://support.express.nec.co.jp/pcserver/>

各種BIOS/FWのアップデートを行う手順は、配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」に含まれる「README.TXT」に記載されています。記載内容に従ってアップデートを行ってください。「README.TXT」はWindowsのメモ帳などで読むことができます。



BIOS/FWのアップデートプログラムの動作中は本体の電源をOFFにしないでください。アップデート作業が途中で中断されるとシステムが起動できなくなります。

- **ROM-DOS Startup FD**

ROM-DOSシステムの起動用サポートディスクを作成します。

- **Test and diagnostics**

Test and diagnostics（システム診断）では本体上で各種テストを実行し、本体の機能および本体と拡張ボードなどとの接続を検査します。システム診断を実行すると、本体に応じてシステムチェック用プログラムが起動します。262ページを参照してシステムチェック用プログラムを操作してください。

- **System Management**

BMC(Baseboard Management Controller)による 通報機能や管理PCからのリモート制御機能を使用するための設定を行います。このメニューから起動する機能は、Maintenance Utilityのシステムマネージメント機能から起動するものと同じです。

## コンソールレス

保守ツールは、本体にキーボードなどのコンソールが接続されていなくても各種セットアップを管理用コンピュータ（管理PC）から遠隔操作することができる「コンソールレス」機能を持っています。



重要

- 本装置以外のコンピュータおよび他のExpress5800シリーズに使用しないでください。故障の原因となります。
- コンソールレスでは、「Boot selection」メニュー中の「Tool menu (Redirection mode)」を選択してください。その他を選択しても管理PCには表示しません。

## 起動方法

次の2通りの方法があります。

- LAN接続された管理PCから実行する
- ダイレクト接続（COM B）された管理PCから実行する

起動方法の手順については、「DianaScope」オンラインドキュメントを参照してください。



重要

- BIOSセットアップユーティリティのBootメニューで起動順序を変えないでください。光ディスクドライブが最初に起動するようになっていないと使用できません。
- LAN接続は標準LANポートのみ使用可能です。
- ダイレクト接続はシリアルポートBのみ使用可能です。
- コンソールレスで本装置を遠隔操作するためには、操作する管理PCとの通信方法や詳細な設定を保存した「設定情報ファイル」を格納したフロッピーディスクを必ずFDドライブに挿入しておく必要があります。「設定情報ファイル」はツールメニューのシステム管理機能や、DianaScope Configurationで作成することができます。「設定情報ファイル」はフロッピーディスクのルートディレクトリに必ず以下のファイル名で作成してください。  
 <設定情報ファイル名>: CSL\_LESS.CFG
- BIOSセットアップユーティリティを通常の終了方法以外の手段（電源OFFやリセット）で終了するとリダイレクションが正常にできない場合があります。設定ファイルで再度設定を行ってください。



ヒント

BIOS設定情報は以下の値にセットされます。

- LAN Controller: [Enabled]
- Serial Port A: [Enabled]
- Serial Port A I/O Address: [3F8]
- Serial Port A Interrupt: [IRQ 4]
- Serial Port B: [Enabled]
- Serial Port B I/O Address: [2F8]
- Serial Port B Interrupt: [IRQ 3]
- BIOS Redirection Port: [Serial Port B]
- Baud Rate: [19.2K]
- Flow Control: [CTS/RTS]
- Console Type: [PC ANSI]

# システムマネージメント

システムマネージメント機能はベースボードマネージメントコントローラ（Baseboard Management Controller: BMC）による通報機能や管理用PCからのリモート制御機能を使用するための設定を行います。

## 起動方法

システムマネージメントは、「EXPRESSBUILDER」から次の方法で起動することができます。

1. 「EXPRESSBUILDER」DVDを本体装置の光ディスクドライブにセットして、再起動する。
2. [Tool menu] – [Japanese] – [System Management] の順に選択する。もしくは、[Tool menu] – [Japanese] – [Maintenance Utility] – [システムマネージメント機能]の順に選択する。

## 機能


システムマネージメントを起動すると、以下の機能を実行できます。







- － ファームウェア管理情報の表示  
BMC(Baseboard Management Controller)に関する情報を表示します。
- － システムマネージメントの設定  
BMCによる通報機能や管理用PCからのリモート制御機能を使用するための設定、通報テストを行います。
- － BMC設定の初期化  
BMCの設定を初期値に戻します。

各設定については、起動後のヘルプを参照してください。

# 移動と保管


CPUブレードやハードディスクドライブ、ブレード収納ユニットを移動・保管するときは次の手順に従ってください。




 **警告**

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 自分で分解・修理・改造はしない
- リチウムバッテリーを取り外さない
- プラグを差し込んだまま取り扱わない

 **注意**

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 3人以下で持ち上げない
- 指定以外の場所に設置しない
- 電源ONのままインタフェースケーブルの取り付けや取り外しをしない



- フロアのレイアウト変更など大掛かりな作業の場合はお買い上げの販売店または保守サービス会社に連絡してください。
- ハードディスクドライブに保存されている大切なデータはバックアップをとっておいてください。
- ハードディスクドライブを内蔵している場合はハードディスクドライブに衝撃を与えないように注意して本体を移動させてください。
- 再度、運用する際、内蔵機器や本体を正しく動作させるためにも室温を保てる場所に保管することをお勧めします。  
装置を保管する場合は、保管環境条件（温度：-10℃～55℃、湿度：20%～80%）を守って保管してください（ただし、結露しないこと）。

<ブレード収納ユニットにデバイスを搭載したまま移動・保管する場合>

1. 搭載しているすべてのCPUブレードの電源をOFFにする。
2. ブレード収納ユニットの電源をOFFにする。
3. ブレード収納ユニットの電源コードをコンセントから抜く。
4. CPUブレードやブレード収納ユニットに接続しているケーブルをすべて取り外す。
5. 4人以上でラックからブレード収納ユニットを取り出す。
6. 4人以上でブレード収納ユニットに取り付けてあるハンドルを持って運ぶ。
7. ブレード収納ユニットに傷がついたり、衝撃や振動を受けたりしないようしっかりと梱包する。

### <ブレード収納ユニット内のデバイス単体を移動・保管する場合>

ハードウェア編で記載されている取り付け/取り外し手順に従ってデバイスをブレード収納ユニットから取り外し、購入時に入っていた袋や梱包箱に入れて、移動・保管してください。



輸送後や保管後、装置を再び運用する場合は、運用の前にシステム時計の確認・調整をしてください。

システム時計を調整しても時間の経過と共に著しい遅れや進みが生じる場合は、お買い求めの販売店、または保守サービス会社に保守を依頼してください。本装置および、内蔵型のオプション機器は、寒い場所から暖かい場所に急に持ち込むと結露が発生し、そのまま使用すると誤作動や故障の原因となります。装置の移動後や保管後、再び運用する場合は、使用環境に十分なじませてからお使いください。

### <ブレード収納ユニットを移動・保管する場合>

ブレード収納ユニット(SIGMABLDE-H)を移動・保管するときは、ブレード収納ユニット(SIGMABLDE-H)に添付の説明書を参照してください。

# ユーザーサポート

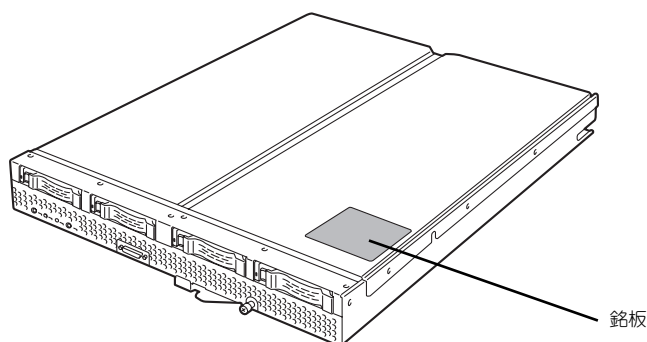
アフターサービスをお受けになる前に、保証およびサービスの内容について確認してください。

## 保証について

本製品には『保証書』が添付されています。『保証書』は販売店で所定事項を記入してお渡ししますので、記載内容を確認のうえ、大切に保管してください。保証期間中に故障が発生した場合は、『保証書』の記載内容にもとづき無償修理いたします。詳しくは『保証書』およびこの後の「保守サービスについて」をご覧ください。保証期間後の修理についてはお買い求めの販売店、最寄りのNECまたは保守サービス会社に連絡してください。



- NEC製以外（サードパーティ）の製品、またはNECが認定していない装置やインタフェースケーブルを使用したために起きた装置の故障については、その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本装置には製品の形式、SERIAL No.（製造番号）、定格、製造業者名、製造国が明記された銘板が貼ってあります。販売店にお問い合わせする際にこの内容をお伝えください。  
また銘板の製造番号と保証書の保証番号が一致していないと、装置が保証期間内に故障した場合でも、保証を受けられないことがありますのでご確認ください。万一違う場合は、販売店にご連絡ください。



## バッテリーの保証について

本装置には、内蔵の時計用とオンボードのRAIDコントローラ（MegaRAID ROMB）用の2種類のバッテリーが内蔵されています。

### ー 内蔵の時計用のバッテリー

本バッテリーの保証期間は5年です。時計が停止したり、遅れるようになった場合は、保守サービス会社に連絡してください。

### ー オンボードのRAIDコントローラ（MegaRAID ROMB）用のバッテリー

本バッテリーの寿命は、使用環境および運用条件によって異なりますが、おおむね2年もしくは、充電回数が約500回です。バッテリーは有償定期交換部品となっております。



す。バッテリーに表示されている日付より2年を経過した場合には、販売店または保守サービス会社に連絡してください。有償にて交換いたします。

## 修理に出される前に

「故障かな？」と思ったら、以下の手順を行ってください。

1. 電源コードおよび他の装置と接続しているケーブルが正しく接続されていることを確認します。
2. 「障害時の対処（265ページ）」を参照してください。該当する症状があれば記載されている処理を行ってください。
3. システムを運用するために必要となるソフトウェアが正しくインストールされていることを確認します。
4. 市販のウィルス検出プログラムなどで本製品をチェックしてみてください。

以上の処理を行ってもなお異常があるときは、無理な操作をせず、お買い求めの販売店、最寄りの NEC または 保守サービス会社にご連絡ください。その際に本製品のランプの表示やディスプレイ装置のアラーム表示もご確認ください。故障時のランプやディスプレイによるアラーム表示は修理の際の有用な情報となることがあります。保守サービス会社の連絡先については、付録B「保守サービス会社網一覧」をご覧ください。

なお、保証期間中の修理は必ず保証書を添えてお申し込みください。



この装置は日本国内仕様のため、NECの海外拠点で修理することはできません。ご了承ください。

## 修理に出される時は

修理に出される時は次のものを用意してください。

- ☐ 保証書
- ☐ ディスプレイ装置に表示されたメッセージのメモ
- ☐ 障害情報（330ページに記載している情報などが含まれます。障害情報は保守サービス会社から指示があったときのみ用意してください。）
- ☐ 本体・周辺機器の記録

## 補修用部品について

本装置の補修用部品の最低保有期間は、製造打ち切り後5年です。

## 保守サービスについて

保守サービスは弊社の保守サービス会社、および弊社が認定した保守サービス会社によってのみ実施されますので、純正部品の使用はもちろんのこと、技術力においてもご安心の上、ご都合に合わせてご利用いただけます。

なお、お客様が保守サービスをお受けになる際のご相談は、弊社営業担当または代理店で承っておりますのでご利用ください。保守サービスは、お客様に合わせて2種類用意しております。

### 保守サービスメニュー

契約保守サービス	お客様の障害コールにより優先的に技術者を派遣し、修理にあたります。この保守方式は、装置に応じた一定料金で保守サービスを実施させていただくもので、お客様との間に維持保守契約を結ばさせていただきます。さまざまな保守サービスを用意しています。詳しくはこの後の説明をご覧ください。
未契約修理	お客様の障害コールにより、技術者を派遣し、修理にあたります。保守または修理料金はその都度精算する方式で、作業の内容によって異なります。

NECでは、お客様に合わせてさまざまな契約保守サービスを用意しております。サービスの詳細については、「[PCサーバ サポート情報] <http://support.express.nec.co.jp/pcserver/>」をご覧ください。



- サービスを受けるためには事前の契約が必要です。
- サービス料金は契約する日数/時間帯により異なります。

## 情報サービスについて

本製品に関するご質問・ご相談は「ファーストコンタクトセンター」でお受けしています。

※ 電話番号のかけまちがいが増えております。番号をよくお確かめの上、おかけください。

ファーストコンタクトセンター

TEL. 03-3455-5800 (代表)

受付時間／9:00～12:00、13:00～17:00 月曜日～金曜日（祝祭日を除く）

お客様の装置本体を監視し、障害が発生した際に保守拠点からお客様に連絡する「エクスプレス通報サービス」の申し込みに関するご質問・ご相談は「エクスプレス受付センター」でお受けしています。

※ 電話番号のかけまちがいが増えております。番号をよくお確かめの上、おかけください。

エクスプレス受付センター

TEL. 0120-22-3042

受付時間／9:00～17:00 月曜日～金曜日（祝祭日を除く）

インターネットでも情報を提供しています。

【NECコーポレートサイト】 <http://www.nec.co.jp/>

製品情報やサポート情報など、本製品に関する最新情報を掲載しています。

<http://club.express.nec.co.jp/>

『Club Express』:『Club Express会員』への登録をご案内しています。Express5800シリーズをご利用になる上で役立つ情報サービスの詳細をご紹介します。

<http://www.fielding.co.jp/>

NECフィールディング（株）ホームページ：メンテナンス、ソリューション、用品、施設工事などの情報をご紹介します。

